

# FRONTIER

No.54

2019/2/20



## Contents

- 2019 新年交礼会 / クリスマスパティー 2018
- 文系 4 学部合同東京同窓会 • 北大丸の内カレッジ
- 職場奮戦記〈この雪には熱がある。〉人工クモ糸開発ベンチャー〈北大マルシェ営業中!〉
- 活躍するリーダーに聞く / 株式会社トクヤマ 横田浩さん
- グローバル同窓生 • 柔道部OB会、硬式庭球部OB・OG会

表紙の写真 写真提供:北海道大学CoSTEPが運営する「いいね!Hokudai」、ならびに北大マルシェ

上左:創成研究機構 上右:常時低温研究室跡「人工雪誕生の地」記念碑

下左:北大がロケ地になった映画「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」ポスター 下中:クラーク像 下右:北大マルシェの「北大牛乳プリン」

2019年 東京同窓会 新年交礼会 広報委員会	4
クリスマスパーティ in HANEDA 2018 島田久	5
文系4学部合同東京同窓会 八谷俊雄	6
北大丸の内カレッジ 谷藤公貴	8
風景との対話「沈みゆくベネチア」 佐々木繁	10
北海道大学ホームカミングデー2018	
—第7回ホームカミングデーを終えて— 北海道大学総務企画部広報課	12
職場奮戦記 「この雪には熱がある。」 柳隆夫	24
「人工クモ糸開発ベンチャー」 石井孝興	28
「北大マルシェ営業中!」 宮脇崇文	30
トップインタビュー 株式会社トクヤマ 横田浩さん 広報委員会	32
グローバル同窓生 「札幌、東京、そしてアムステルダムへ(前編)」 吉原直毅	36
エルム談話室 平成30年8月～平成31年1月の活動報告 清水慧	40
北海道大学柔道部OB会 本田信裕	44
北海道大学庭球部OB・OG会 桑田雄平	46
<書評コーナー>北水ブックスシリーズのご紹介 広報委員会	49
北海道大学「大学文書館」のご案内 山本美穂子	50
北海道大学の近況(2018年春～秋) 北海道大学総務部広報課	52
名刺広告	56
総会案内・新入会員・訃報	59
多磨霊園墓参 クラーク遺徳顕彰・墓参委員会 平田更一	60
<お知らせ>北大東京ジンパ2019/4コマ漫画「蔵重久人の北大あるある」 高野葵	62
北海道の花 「アツモリソウ」 鮫島惇一郎	64

アルミのことなら日軽金

# クリスマスパーティー 2018 in HANEDA



日時：平成30年12月2日(日) 16時～ 会場：羽田空港第1ターミナルビル6階 ギャラクシーホール

毎年、年末の恒例イベントとなつている平成最後のクリスマスパーティーが、12月2日(日)、羽田空港内のイベントホールで開催されました。

目の前には離着陸する滑走路が広がり、夜には美しいテールランプを望める会場なので、参加者された方は、普段とは異なる雰囲気を楽しまれたことと思います。

ゲーム大会は、家族で参加して空港見学を体験した子どもたちの笑い声が響き、大いに盛り上がりました。

多数の豪華賞品を協賛していただいた皆さまに感謝致します。

〈ご協賛いただいた方々〉  
北大校友会エルム様、丹羽弘様、杉江和男様、松沢幸一様、石川裕一様(順不同)

★年末の忙しい中、準備に取り組んでくれたMCからのメッセージ。  
・宮佐穂奈未さん  
(MC・トナカイ、実行委員長)

毎年恒例のクリパを、今年も2年ぶりに羽田空港のイベントホールで開催することができ、80名もの大勢の皆さんと一緒に、空港からの夜景を見ながら、素敵な時間を過ごすことができました。

多くの方を前にMCや委



多田宗広さん・左(H26情報院)と宮佐穂奈未さん・右(H26環境院)

員長挨拶をさせていただき、緊張したことは、よい思い出です。

来年もジンパ、クリパ、そして丸の内カレッジを若手中心に運営して参りますので、ご興味をお持ちの方は是非一緒に実行委員をやってみませんか！

・多田宗広さん(MC・サンタ)

北大東京クリパは、企画から実行まで若い実行委員が中心となつて行い、司会も毎年若手が務めています。今年のクリパは2年ぶりに羽田空港ギャラクシーホールで開催し、特別企画として羽田空港探検ツアーも実施しました。

当日は北大からお越しくださった笠原理事・副学長をはじめ、80名の方の前での司会に



東日本恵迪寮同窓会会長の坂倉さん(S48農)・左と岩堀さん(H16農)・右



ゲーム大会の様子

緊張いたしましたでしたが、普段の仕事では得ることの出来ない貴重な経験が出来ました。

★かっこいい和服姿で参加した同窓生からのメッセージ。

・岩堀隆志さん(H16農)

今年も関西から参加させていただきました。JAL整備場の探検ツアーでは、なかなか見ることのできないバックヤードや発着の様子をまじかに見学できました。

パーティーでは、普段会えないいろいろな同窓生と有意義な情報交換ができました。また今年には特に、昨年お会いした先輩技術者との再会を楽しみに参加しました。一度引退された後、再び技術者として復帰、生き生きと仕事に取り組んでいるお話を聞かせていただき、とても刺激になりました。

また機会を作つて東京同窓会のイベントに参加したいと思います。実行委員の皆さまに感謝いたします！



# 2019年 東京同窓会 新年交礼会

日時：平成31年1月11日(金) 18時半～21時  
会場：音楽ビアプラザ・ライオン銀座店

まだお正月気分が漂う1月11日(金) 18時半より、昨年引き続き銀座7丁目の「音楽ビアプラザ・ライオン」にて新年交礼会が開催されました。

司会進行は、総務委員長の菅埜誠さん(S52経済)と前総務委員長の菅隆明さん(H13水産院)のお二人。大野さんはドイツと日本を行ったり来たりする忙しい中での参加です。

冒頭、杉江和男東京同窓会会長(S45工応化院)によるご挨拶、ならびに乾杯のご発声にて懇親会が始まりました。会長挨拶の要旨は次の通りです。

・明けましておめでとうございませう。今年の先行きは、参議院選挙や消費税の増税が予定され、世界の政治や経済が落ち着かない中、しばらく混沌とした状況が続くでしょう。

・トップが一人で能力を発揮する欧米と異なり、日本のやり方はリーダーシップとチームワークで結果を出すことです。

・日本企業が提供している製品・サービスの「品質」「匠の技」や「おもてなしの心」は海外から高く評価されています。

・日本は国際化が遅れていると言



司会・大野隆明さん



司会・菅埜誠さん



杉江会長の挨拶

われていますが、実は1・3億人が共生して欧米よりも多様性を受け入れている国だと思えます。

・昨今は「お金」が最も大事な価値のように捉えられ、高収入を得ることが評価される風潮ですが、そのような社会は持続しませんが、今こそ日本が培ってきた「品質」「チームワーク」「他を受け入れる柔軟性」を世界に発信していく時代だと考えています。今年も健康に留意して頑張りましょう。



「都ぞ弥生」の大会唱



ステージでのショータイム

新年交礼会で初めて会った者同志でも、ビールを飲むほどに話が弾んでくるのは、同じキャンパスで過ごしてきたから。お互いの遠い時代の話に自然と花が咲きます。世代や学部が違つていても、旧知の先輩後輩のような話ができるのは北大ならではの校風でしょう。

お腹も少し落ち着いた頃、ステージではショータイムが始まりました。プロの音楽アーティストたちが「永久の幸」などの馴染みの曲を演奏すると、参加者も一緒に合唱です。会場は一層和やかな雰囲気になり、盛り上がりました。

宴の最後は競技スキー部OBの高橋寛さん(S62農)の前口上による「都ぞ弥生」の大会唱。そして、いつもカメラン役を担ってくれている山本剛さん(H10法)の記念撮影で中締めとなりました。

参加された方々にとつて、よい一年のスタートとなる同窓会だったと思います！

# 「文系長屋」で学んだ仲間が集う — 文系4学部合同東京同窓会を初開催 —



日時:平成30年10月17日(水) / 会場:新宿ライオン会館6Fパーティールーム

八谷 俊雄 (H2法)

10月17日(水)、新宿ライオン会館にて文系4学部(法・経済・文・教育)による合同東京同窓会が初めて開催されました。札幌では既に数年前からホームカミングデーの時に文系4学部合同の同窓会が開催されていますが、東京では従来から隔年で開催している法・経合同東京同窓会を発展する形でこのたび初開催となりました。

昨年5月の東京同窓会総会の懇親会において、陣谷義直経済学部東京同窓会長(昭51)と奥野繁法工学部東京同窓会長(昭50)が正式に合同同窓会について相談、合意したところから準備がスタートしました。実際には4学部同窓生有志数名から構成される事務局を6月に結成、事務局メンバーの懇親(心合わせ)を兼ねた打合せを数回重ねつつ、周知・会場との打合せ・参加受けつけ等、各種準備を進めてきました。

当日は4学部からの同窓生のほかに、本学から長谷川晃理事・副学長、加藤智章法学部長・法学研究科長(当時)、平本健太経済学研究科長(昭62)、佐々木亮子法学部同窓会長(昭47)、更に杉江和男東京同窓会会長(応化院・昭45)も加わり、総勢70名余りが参加しました。

今回は初開催という事で「とにかく、学部・世代を越えて懇親できる雰囲気を作りたい」という思いで「若い世代」に「楽しかった、また来たい」と思ってもらえるようにしよう」という事で講演会を行わず、来賓・参加者の挨拶もお酒を交えて懇談をしながら聞くというスタイルで開催しました。その効果があつてか会場のあちこちで懇談の花が咲いておりました。

母校からご参加いただきました長谷川副学長、加藤先生、平本先生、杉江会長、法学部同窓生として参加された石川裕一東京同窓会副会長(昭54)よりご挨拶がありました。石川副会長からは「世界最高水準の教育研究活動を行って



挨拶される  
長谷川理事・副学長



塩田哲也さん  
(教・H2)

に同窓会組織がないことや東京同窓会の各行事への参加数も少ないことから、単独開催となる今年度の法学部と経済学部の同窓会(それぞれ今年秋開催)への参加は大歓迎することを確認しました。法・経両学部同窓の皆様はもちろんのこと、文・教育両学部の同窓の皆様も是非お待ちしております!

いる国立大学に文部科学省が「指定国立大学法人」を認定しているが(現時点で7大学)、その中に北大はまだ入っていないという厳しい現状を認識した上で大学全体が活性化し、先生方の研究や教育が更に充実できるように我々が支援していなければならぬ。」と話がありました。

後半には文学部、教育学部の参加者よりご挨拶をいただきました。紙面の都合で抜粋となりますが、お伝えしたいと思います。「今回の同窓会はやはり、法・経の方が多かったですが、少数とは言え、文・教からの参加者もあり、大いに交流を深める事が出来ました。学部・学科の仲間やサークル以外でこうした交流を持つことは難しいです。今後も機会があれば積極的に参加し、北大の思い出を語り、「都ぞ弥生」の大合唱で一瞬でも青春時代に戻りたいと思います。」(伊藤宏明さん、文・昭63)。

「最初は先輩方を前に緊張してしまいましたが、会の雰囲気は非

常に和やかで気さくに話しかけていただき、楽しい一時を過ごすことができました。また、この同窓会は単なるパーティーではなく、人脈形成の場であると感じました。普段の仕事ではなかなか接点を持ってない方ともつながる事が出来ました。まだまだ若い人たちの割合が少ないので、是非、同窓会の活動に若い人たちが参加してくれればと思います。(今回の最若手参加者の高野直人さん、文・平29)。

「今回の同窓会事務局の教育学部同期からの誘いで参加しました。教育学部からの参加者は今回わずか4名でしたが、同じ『文系長屋』で学んだ仲間として皆さんに温かく迎えていただき、多くの方と交流する楽しい一時になりました。やはり、最後に輪を作り、肩を組んで合唱する『都ぞ弥生』が素晴らしかったです。これぞ、北大同窓会の醍醐味だと思います。」(塩田哲也さん、教・平2)。

また、昨年9月5日の台風23号および翌日の胆振中部大地震で生



伊藤宏明さん  
(文・S63)



高野直人さん  
(文・H29)

なお、後日開催された事務局反省会で4学部合同同窓会は、基本的に隔年開催とし(今回は2020年秋)、また、文・教育は東京



最後はやはり「都ぞ弥生」で締め

# 北大丸の内カレッジ

北大丸の内カレッジ  
委員長 谷藤公貴 (H23 医保健)

## 同窓会の良さがここに

北大丸の内カレッジは北大同窓生が楽しく学び交流することを目的として2018年7月に開校しました。2ヶ月に1回の緩いペースでノー残業デーの水曜日の夜にカジュアルに開催しています。参加者は20代から70代まで、出身学部もバラバラです。世代間交流できているのが特徴です。

他業種で活躍するやる気のある後輩、ビッグな先輩、職場にはない出会いがあります。同窓会ならではの良さがここにはあると思います。

北大同窓生のためのリカレント教育という位置付けではありませんが、専門知識を得るといっても広く教養を深めることや他者の経験をケーススタディとして学べる場として学べる場としています。そのため、様々な分野の多岐にわたるテーマを皆さんに提供



第1回の参加メンバー

様々なカタチで同窓生の知的好奇心を満たしていきたいと思っています。講義終了後は毎回講師を交えての二次会を開催しています。講義参加者の約半数が参加してくれませんが、これも同窓生同士を繋ぐ大きな役割となっているように思います。

うです。時には三次会まで行く強者もいます。参加者それぞれが北大丸の内カレッジをきっかけとして、自分たちなりに楽しい時間をつくっているようです。是非、北大同窓生みんなが北大丸の内カレッジを作っていきたい。

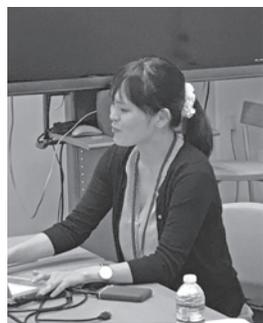
### 【第1回】辻本陽平

2013年工学部情報科学学院卒  
テーマ「高専ロボコン」

高専時代に経験したロボコンの話を中心に、ものづくりの発想・創造・実践について紹介。歴代のユニークなロボットたち。機械班、電気班とは？恐ろしい国技館の魔物。北大東京ジンパとテクノロジー。IT×ものづくりを講師の経験に基づき紹介。



辻本陽平さん



関良子さん

【第2回】関 良子  
2009年法学部卒  
テーマ「青年海外協力隊の現場から〜世界も、自分も、変わるらない?〜」

大学卒業後、電機メーカーのSEとして働くも、思い立って青年海外協力隊に参加。現在もサラリーマンの傍ら、ボランティアで縁のあったボリビアと日本の架け橋になるべく日夜活動中。「世界も、自分も、変えるシゴト」というキャッチコピーに惹かれてボリビアに行くことになったが、果たして、世界も自分も変えることはできるのか? 実際のボランティア現場から見た風景をボリビアの絶景とともに紹介。

### 【第3回】中西克彦

2010年経済学部卒

#### テーマ「ベンチャー奮闘記」

3年前に高校の同級生が運営していたお菓子ベンチャーに転職。「オープンまで2カ月を切ったタイミングでの上海直営店立ち上げ」「コーポレートから一転、未経験の事業部へ」「突然の会社の売却」というトピックで、現在までのドタバタ奮闘記を紹介。



中西克彦さん

### 【第4回】中尾有希

2008年工学部建築都市学科卒

テーマ「今が旬?何が起きてる?気になる日本の観光あれこれ」  
地方創生インバウンド・民泊・オリピックなど、ここ数年一気に盛り上がりを見せている日本の観光。実際ののくらしい日本の経済

地方創生、インバウンド、民泊、オリピックなど、ここ数年一気に盛り上がりを見せている日本の観光。実際ののくらしい日本の経済

にインパクトがあるのか? 訪日外国人はどこまで増えるのか? 日本人のトレンドはどうなっているのか? 観光が盛り上がり良いことばかりなのか? 将来的な課題は? そんな観光にまつわるの疑問に対し、在学中にバックパッカーの経験を持ち、10年に亘り旅行業界に携わる講師の主観と意見を紹介します。



中尾有希さん

#### ◆参加者の感想

丸の内カレッジに第2回から参加しています。

まず、何より雰囲気がいいです。飲み物とスナックを片手にゆったりとしたなか、会が進行されています。

そして、参加メンバーの雰囲気もいい。世代も幅広く、20代の新卒近くから、30〜50代の現役バリバリ世代、さらに明るく活動的なご年配の世代まで。現役世代の方が多いことは、交流においても刺激的です。

講師からは、がんばって取り組んでおられる姿に北大のDNAを感じ、元気をいただくと思います。

終わったあとは、自由参加での懇親会。ここで北大同志との距離がぐっと近くなります。いろいろな魅力に満ちた丸の内カレッジです。

津崎洋人(S60:工建築工学、S62:大学院環境科学研究科修了)

場所からして、丸の内というより日本橋カレッジじゃないかな。そう思いサピアタワーの住所を改めて確認してみると、なるほど確かに丸の内一丁目とある。永代通りを挟んで向こう側が大手町、外堀通りを挟んで向こう側が八重洲なのだそう。ともあれ、丸の内カレッジ、大満足である。まず、コンセプトが良い。仕事でも家庭でもプライベートでもない、同窓生であるという共通点以外は何ら利害関係のない「学友」が集い、共に学ぶ楽しさ。次に、時間帯が良い。普段なら一杯飲んで帰ってしまう時間。活用するにはもってこいだ。そして何より、内容が素晴らしい。スピーカーは自らの知識や経験に自分の考えを織り交ぜながらプレゼンテーションを行うのだが、若い彼らから発せられる力強い言葉は、彼らが直面するこれからの長い人生に対する決意表明にもなっているのだ。最寄り駅は東京駅の日本橋口です。

三上雄貴(H21:文学)

#### ◆講演者からのメッセージ

〜第4回の中尾さんより〜

今回の機会では、改めて自身を重ねてきたキャリア、そして情熱を持って打ち込んできた旅行業界の変遷を振り返り、旅行業界をまつたく知らない方にも理解しやすいよう、シンプルに整理する非常によい機会となりました。

また学部の専門性を活かさず社会人になっていた私は、仕事上でOB・OGに会うことはめったになく、北大との関係はたまに建築学科の同窓会に出る程度でした。そのような中、どのような方がいらっしやるか未知でしたが、当日の会場の空気はとても温かく、拙い若輩者の話を真剣に聞いてくださり、質疑応答や終了後応援のお声がけいただき、OB・OGとのつながりのありがたさを実感できました。本当にありがとうございました。

日時：3月27日(水)  
テーマ：No Maps〜クリエイティブで切り拓く北海道の未来〜  
講師：廣瀬岳史(H12経)  
※詳しくは北大同窓会メルマガをご覧ください。

#### 第6回の予定

日時：3月27日(水)  
テーマ：No Maps〜クリエイティブで切り拓く北海道の未来〜  
講師：廣瀬岳史(H12経)  
※詳しくは北大同窓会メルマガをご覧ください。

# 沈みゆくベネチア

佐々木 繁(S・50・理・物理)

風景との対話、それは、「これから行く末を尋ねる」風景との対話でもある。

数年前に絵に描いた中世のひと頃の繁栄を示すベネチアの運河。その華やかな場所にも破壊の影が忍び寄る。今年2018年10月29日の夜、ベネチアの4分の3が冠水したという。それは過去40年間で最大の規模だという。もともと年に20回ほどは冠水するというベネチアのサンマルコ広場。観光客は、スネまでズボンをまくり上げて歩くのが習わしになっている。

日本でも今年の異常気象は最悪だった。巨大台風で家が地震の時のように揺れ、大雨で床上浸水も経験し、夏には熱中症になり倒れた。これは私が初めて経験した温暖化の影響である。地球温暖化のせいで、ここ半世紀のうちに冠水するだろうと言われる都市は多い。

きかないのだ。巨大な台風や大洪水や夏の熱波に対して、ただ狼狽するのみである。人類が一致団結して事に当たらないければどうしようもない。しかし利害が絡み合った国同士が一致団結するにはもう時間がない。

このベネチアの運河の風景は、沈みゆくベネチアを象徴する風景だ。今後、水位は段々高くなり、船着き場も水の中に沈んでしまおうし、両岸の建物も浸水して住めなくなるだろう。



S. Sasaki  
2014.10.5

未来人です。  
少し先の未来から  
来ました。

あなたが想像する未来では、  
車が空を飛んでいますか。  
ロボットがお世話してくれていますか。  
ところで医療の未来はどうですか。  
オーダーメイドの薬。  
手のひらでわかる健康診断。  
病気の事前予測。  
バイオの力があれば、実現できるかも。  
詳しくは未来で。



## バイオでしか、 行けない未来がある。

すべての革新は患者さんのために  
CHUGAI 中外製薬  
Roche ロシュグループ

文系4学部合同公開企画「いままでの北海道これからの北海道」森田美由紀さんをお迎えして・同窓会総会・同窓会懇親会

**部局・同窓会主催行事**  
文学研究科・文学部・教育学院・教育学研究科・教育学部・法学研究科・法学部・経済学院・経済学研究所・経済学部



活動報告を行う4名の学生



交響楽団による演奏



「都ぞ弥生」の斉唱

昆虫トリカヘチャタテの進化」と題して講演を行い、分かりやすく研究内容を説明しました。  
その後「学生からの活動報告」と題し、新渡戸カレッジ・スクール学生2名及び公認学生団体(体育系、文化系)2名による課外活動報告がありました。  
そして、歓迎のステージでは、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による演奏が行われ、その穏やか

な音色に会場は聞き入った様子でした。  
式典の締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。参加者の皆様には本学の「今」を体感していただけたことと思います。

9月29日(土)15時~19時  
人文社会科学総合教育研究棟  
(W棟103室等) 参加者68名  
文学部・教育学部・法学部・経済学部の4学部による合同開催として、「いままでの北海道これからの北海道」と題し、同窓生向けの講演会を行いました。  
長谷川晃理事・副学長の挨拶の後、同窓会幹事・山崎幹根教授の総司会により、講演会の説明が

9月30日(日)13時30分~19時  
医学部学生会館(フラテ)  
参加者89名  
医学部では、「北海道大学医学部フラテ祭2018」を開催しました。  
第1部の施設・キャンパスツアーでは、教育助教がツアーコンダクターとなり、参加者をご案内しました。施設巡りでは陽子線治療センター・生体試料管理室・電

子顕微鏡室・遺伝子病制御研究所・外科実習体験を見学・体験していただきました。キャンパス巡りではバスで大学構内を巡り、第2農場・ポプラ並木・クラーク像・総合博物館を見学して楽しんでいただきました。  
第2部の講演会では、吉岡允弘医学部長、寶金清博北海道大学病院長、阿部弘本学名譽教授が講演を行いました。阿部名譽教授には「医療に国境はない」と題した特別講演をしていただきました。講演会終了後は音羽博次奨学基金授

# 北海道大学 ホームカミングデー 2018



## 第7回 ホームカミングデーを終えて 北海道大学総務企画部広報課

広報室総長補佐 西口 規彦  
9月28日(金)~9月30日(日)3日間、「Be ambitious again」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー2018」を開催しました。7回目の開催となる今年のホームカミングデーは天候にも恵まれ、秋の爽やかな風を感じられるなか、同窓生や在学生の保護者など多くの参加者が札幌キャンパスに集いました。  
全学行事のほか、部局・同窓会が主催する様々な行事が行われ、参加者は旧交を温めたり、現役の学生と世代を超えた交流を持つなど、エルムの森で楽しいひとときを過ごしました。  
なお、次回、第8回のホームカミングデーは、平成31年9月27日(金)~9月29日(日)の3日間の開催を予定しています。

### 全学行事

総務企画部広報課  
歓迎式典・記念講演会  
9月29日(土)10時~11時45分  
学術交流会館講堂 参加者約250名  
ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。  
当初予定していたクラーク会館

講堂が、9月6日(木)に発生した平成30年北海道胆振東部地震の影響により使用できなくなりましたため、急遽、学術交流会館講堂を会場として行うこととなりましたが、多くの同窓生や関係者にお集まりいただき、「北海道大学民謡研究会合唱団わだち」による躍動感あふれる「三宅島太鼓」「ソーラン節」の演舞で式典は幕を開けました。  
司会は本学経済学部卒業生である北海道放送株式会社(HBC)の船越ゆかりさんが務め、最初に名和豊春総長から「北海道大学142年の歩みとこの使命」と題してこれまでの歩みや現在の取組、目指すべき姿について報告があり、「2026年の創基150年を見据え、同窓生をはじめとするすべての関係者と力を合わせてさらに邁進していきたい」とのメッセージを伝えました。  
次に、石山喬北海道大学校友会



「民謡研究会合唱団わだち」の演舞



本学の歩みについて報告する名和総長

エルム会長が歓迎の挨拶として、国立大学を取り巻く環境とともに、校友会エルムの果たす役割や意義について話されました。  
続いて、人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究業績に対して贈られる「イグノーベル賞」を昨年度受賞した農学研究の吉澤和徳准教授が「性器の逆転



吉澤准教授による講演



歓迎の挨拶を述べる石山会長



長谷川理事・副学長の挨拶



参加者全体の様子



参加者からの質問

美由紀氏から今回のテーマに沿った多種多様な角度からの豊富な話題を交えた講演が行われました。後半では、参加者からの質問に対し、一つ一つ丁寧に回答される姿が印象的でした。  
本講演には同窓生に加えて教職員約130名が訪れ、充実した講演会が成功裡に終了しました。  
公開講演会終了後は、各学部同

窓会による総会、次いで、文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われました。懇親会には秋元克広札幌市長(法学部同窓生)をはじめとして多くの同窓生が出席し、和やかな歓談のひとときを過ごし、学部を越えての交流を深め、盛会のうち

**水産学部卒業生のつどい  
～講演会、懇親会～**  
9月29日(土)14時～17時45分  
学術交流会館第1会議室・百年記念会館 北大マルシェ 参加者56名  
水産学部では、卒業生の中田薫氏(国立研究開発法人水産研究・教育機構 理事)による講演会が行われました。講演に先立ち、北水同窓会の水田浩之幹事長による

**水産科学院・水産科学研究院・水産学部、北水同窓会**

人に森下啓太郎氏(平18年卒)が指名され、各議案が審議されました。通常総会に引き続き新評議員会を開催し、新理事の選出の後、新理事会の開催及び講義棟前での記念撮影を実施しました。

続いて、講堂でフォーラム・交流会を開催しました。今年「共同獣医学課程のさらなる発展に向けて」と題し、同窓生及び現役の学生が、帯広畜産大学と実施している共同獣医学課程の最新事情と、これをさらに



同窓会員による総会後の集合写真



動物のお医者さんの漆原教授のモデルとなった2人の名誉教授と現役学生

開会の挨拶に始まり、木村暢夫学部長から函館キャンパスにおける近況報告の後、「水産研究所で海洋研究を行う」プランクトンを通して「気候・生態系・水産資源の変化を見る」と題する講演が行われました。水産研究所で長期間蓄積されてきたデータやプランクトン試料を活用し、プランクトンの変化を通して気候変動がマイワシ等の水産資源変動に及ぼす影響の解明の研究や、東日本大震災対応

発展させるための取り組みについて紹介しました。その後、会議室において懇親会を行い、同窓会員同士や同窓会員と現役学生の間で親睦を深めました。

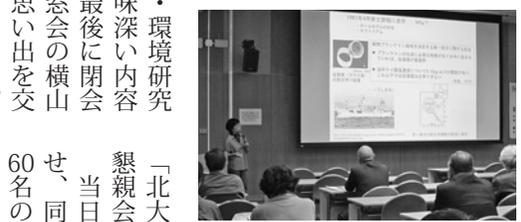
環境科学院のホームカミングデーは、今年も松野環境科学賞授賞式で始まり、今年も松野環境科学賞授賞式で始まり、授賞式後は修了生による講演会を例年開催しており、学院生時代の就職活動や、修了後の社会での活躍などを、主に在学生へのアドバイスと

**環境科学院・地球環境科学研究所、環境科学同窓会**  
9月28日(金)14時～20時  
環境科学院D201・環境科学院エントランスホール 北大生協中央食堂2階 参加者84名

及び研究所が行う海洋・環境研究の説明があり、大変興味深い内容の講演となりました。最後に閉会の挨拶として、北水同窓会の横山清会長から学生当時の思い出を交えながらの挨拶がありました。講演会終了後は、百年記念会館の



木村学部長の挨拶



講演会の様子



懇親会の様子

「北大マルシェ」に会場を移し、懇親会が執り行われました。当日は、講演会と懇親会を合わせ、同窓生、教職員、学生など約60名の方々に参加いただき、和やかな雰囲気の中盛況のうちに閉会となりました。

して講演しています。まず、地質調査・解析関連に従事されている岡本彩加さんから、9月に発生した平成30年北海道胆振東部地震の被災地域で、災害復旧のための調査を行っているとの報告がありました。次に、広報や映像関連に従事されている谷内秀久さんからは、テレビ番組ディレクター時の経験と番組制作の裏側についてお話いただき、物事の本質を見極めシンブルに表現する力がとても大切だと、アドバイスがありました。そして、地下微生物の研究をされている上野晃生さんからは、地下の有

**保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科  
大学院保健科学研究院  
ホームカミングデー**  
9月29日(土)13時30分～16時10分  
保健科学研究院大会議室(C棟6階) 参加者41名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では、保健科学研究院ホームカミングデー(分野紹介・講演会)と題し、本研究院の各分野から、最近の教育研究の諸活動などについて近況の報告及び卒業生の方々に講師としてお迎えし、これまでの歩み、現在の活動状況などをお話ししていただきました。

与式が行われ、7名の学生に奨学金が授与されました。第3部の交歓会では、医学部公



阿部名誉教授による特別講演



キャンパスツアーの様子



交歓会の様子



医学部施設巡りの様子

「病院を飛び出しベンチャー企業を立ち上げた放射線技師」人工知能(AI)で医療を生活の一部に」と題し、近年、人工知能(AI)の発達に伴い、医療にAIを生かすことが出来るのは、現場を知る人のみであること、現場を医療とAI、さらに個人の生活を繋げる取り組みについてお話し

た「また参加したい」等のお声を多数いただきました。

認団体アンサンブル・フラテによる「学友会歌」「都ぞ弥生」が披露された後、浅香正博同窓会長のご挨拶・乾杯により開宴されました。学生による弦楽四重奏の演奏の中、同窓生・学生親族・医学部生・教員が一堂に会し、和やかな歓談のひとときを過ごしながら交流を深めることができました。半ばには医学部生による活動紹介が行われ、最後に参加者と「都ぞ弥生」を合唱し、盛会の中フラテ祭を終えることができました。

参加者の方からは「とても興味深いものだった」「また参加したい」等のお声を多数いただきました。



分野紹介の様子



齋藤研究院長の開会挨拶



椎名氏による講演



佐藤氏による講演

続いて、椎名希美氏(合同会社Kプロジェクト代表社員)に、「病院を飛び出しベンチャー企業を立ち上げた放射線技師」人工知能(AI)で医療を生活の一部に」と題し、近年、人工知能(AI)の発達に伴い、医療にAIを生かすことが出来るのは、現場を知る人のみであること、現場を医療とAI、さらに個人の生活を繋げる取り組みについてお話し

学病院看護部長)に、「北海道学病院看護部が大切にしていることー自分の体験を中心にー」と題し、北大病院看護部が大事にしてきた考え方や変化したこと、これからの方向など、自身の体験を中心に北大病院看護部の今についてお話しいただきました。

ただきました。また、講演後には、質疑応答が行われるなど、参加者からは大変好評でした。引き続き、昨年度からの取り組みとして、同窓会による総会、次いで、懇親会が開催され、多くの同窓生が出席し、和やかな歓談のひとときを過ごし、世代を超えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。

ただきました。また、講演後には、質疑応答が行われるなど、参加者からは大変好評でした。引き続き、昨年度からの取り組みとして、同窓会による総会、次いで、懇親会が開催され、多くの同窓生が出席し、和やかな歓談のひとときを過ごし、世代を超えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。

**獣医学院・獣医学研究所・獣医学部**  
9月29日(土)11時～18時  
獣医学部講義棟会議室 講堂 参加者約76名

獣医学部同窓会通常総会、新評議員会、フォーラム・交流会及び懇親会を実施しました。通常総会は、獣医学部講義棟(講堂)において行われました。総会開催に先立ち、逝去会員に対して黙祷を捧げた後、堀内基広会長(昭61年卒)の挨拶があり、議長に有川二郎氏(昭52年卒)、副議長に中尾亮氏(平20年卒)、議事録署名

機物を活用するための実用的な研究を続けていることについての報告があり、最後に、水質改善関連に従事されている杉原幸樹さんからは、学生時代や大学院修了後の経験を基に、学生時代に苦労をしておくことが社会人になってから耐性となり力となる、と力強く語られました。当時の研究を実用している方、あるいは研究から離れた方など様々ですが、いずれも当時の経験を活かし、ご活躍されています。

今年度の懇親会は現役学生の参加が多く、同窓生や教職員を囲んで色々な話がされていました。異世代間の交流もできた、エネルギー溢れる懇親会となりました。



松野環境科学賞受賞者



講演会の様子



懇親会の様子

**理学部・理学研究院・理学部、理学部同窓会**

**理学部ホームカミングデー  
理学部企画・学科訪問、同窓会  
総会、理学部同窓会交流会**

9月29日(土)13時30分～18時  
理学部2号館玄関ロビー他 参加者76名  
理学部ホームカミングデーは、今年も理学部同窓会総会をこの日にあわせて開催しました。

最初に、2号館玄関ロビーを会場に、理学部の現況報告を行いました。石森浩一郎理学研究院長・理学部長、加藤敦之同窓会理事長の歓迎挨拶の後、石森研究院長が「理学部・学院組織の説明や、理学部」

その後、同窓会総会を本館大会議室で開催し、議案に対する審議を行いました。例年通り多くの同窓生に出席いただき、同窓会の運営に関して熱心な質問や意見交換がなされました。

総会終了後、同窓生は、各学科による研究室見学、現役学生・教



阿部教授



小泉教授



会場の様子

起源地・中国のダイズ品種と日本のダイズ品種の間でのDNA配列の違いや、北海道での栽培に最適なダイズ品種のDNA配列をご紹介いただき、有用なDNA配列の選抜・創出の重要性が分かりました。

続いて農学研究院の小泉章夫教授が「北海道の広葉樹資源の循環利用」と題する講演を行い、広葉樹材が天然林からしか生産できないという現状説明の後、様々な広葉樹材の利用用途と、強度等からみた将来の用途の可能性及び今後の生産方法に関する提言について説明がありました。

会場には同窓生だけでなく、一般市民の方にも多数お集まりいただき、大講堂の多くを埋める127名の参加がありました。参加者からの質問等も多く、大変盛会となりました。

**国際広報メディア・観光学院  
メディア・コミュニケーション研究院  
ホームカミングデー@IMCTS2018  
(修了生meet在生2018)**

9月29日(土)13時～19時30分  
メディア・コミュニケーション研究院  
メディア棟 参加者49名



修了生講演会の様子



合同プレゼンテーションの様子



懇親会の様子

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは、恒例の「国際広報メディア・観光学院PRビデオ」の放映で開幕しました。

修了生講演会第一部では国際広報メディア研究科第6期の折田智之氏(北海道新聞社報道センター)より「新聞社から見る北

学生や教員からいくつもの興味深い質問やコメントがありました。修了生講演会に引き続き行われた在校生ワークショップは、「特撮・アニメから読み解く『平成』」というテーマで、国際広報メディア専攻及び観光創造専攻の学生が合同でプレゼンテーションを行い



石森理学研究院長の近況報告



同窓会奨学生の発表



同窓会総会の様子

員との懇談会に参加し交流を深めました。その後、教職員と同窓生はフアカルティハウス「エンレイソウ」に移動し、理学部同窓会交流会に参加しました。

石森研究院長の挨拶・乾杯で交流会が幕開けし、立食形式による

1時間ほどの会でしたが、和やかな雰囲気でも進み、歓談の合間には現職教員が各学科の近況を報告しました。また、同窓生からは理学部を応援するお言葉をいただき、加藤同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯で盛会のうちに終了しました。

**農学院・農学研究院・農学部  
市民公開・農学特別講演会  
「農と食が創る持続的な社会」**

9月28日(金)13時30分～15時20分  
農学部4階大講堂 参加者127名

本講演会は、明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会の中の特別講演会を継承・発展させてきたものであり、120年の歴史を持ちます。平成9年以来、同窓生をはじめ、広く一般市民の方々に公開しています。本年も、農学院・農学研究院・農学部、札幌農林学会及び札幌農学同窓会による主催、札幌国際プラザによる後援で、「農と食が創る持続的な社会」のテーマで開催しました。

野口伸副研究院長による開会挨拶の後、農学研究院の阿部純教授から、「DNAで読み解くダイズの起源と品種の分化」と題する講演が行われました。ダイズの栽培

ました。それぞれのプレゼンテーションに対して、発表者と参加者との間で、現職教員や同窓生を巻き込んだ活発な質疑応答が行われました。

同窓会総会では、札幌、東京、北京における活動について報告が行われ、今後の同窓会の組織化をさらに高めていく方策について話し合われました。続く懇親会は修了生、教員、在学生や本学院のOB教員で賑わい、盛会のうちに終了しました。

開会挨拶の後、ポスター発表の部として、2階ロビーで工学研究院及び情報科学研究科の最近の代表的研究成果について、27課題のポスター発表を実施しました。

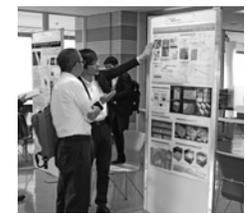
なお、ポスター発表のうち19課題については、工学系連携推進企画部ホームペーJで工学系研究者シーズ集Vol.16として公開していますので、ぜひご覧ください。

引き続き、イノベーションに関連した2つの講演を情報科学研究科A21教室で実施しました。

最初に、大木達也国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー環境領域・環境管理研究部門総括研究主幹から「近未来の都市鉱山構築に向けた技術開発的アプローチ」について講演が行われました。

続いて、富田章久情報科学研究科教授から「超長期安全性を保証する量子融合暗号技術」について講演が行われました。

◆<http://labs.eng.hokudai.ac.jp/office/elo/jp/seeds/>



ポスター発表の様子



大木氏による講演



富田教授による講演

・同窓生向け講演会  
9月29日(土)15時~17時  
工学部アカデミックラウンジ1 参加者27名



山岸氏 今特任教授 鈴木氏

工学部アカデミックラウンジ1において、工学部の同窓生を対象にした講演会を行いました。

はじめに、増田隆夫工学研究院長・工学部長が歓迎の挨拶を述べた後、工学研究院及び工学部の現況報告を行いました。

山岸泰北海道ガス株式会社技術開発研究所長から「北海道ガス技術開発研究所における産学連携による研究開発について」、今日出工学部特任教授から「工学系におけるこれからの官学連携」、鈴木和彦北海道科学大学理事・副学長から「工学系におけるこれからの学学連携」と題した講演が行われました。

また、講演会の後、工学部アカデミックラウンジ2において現任教員も加わり懇親会が開かれました。

歯学院・歯学研究院・歯学部

北大の歯学教育、研究、臨床の現状  
― 次の50年の第一歩として ―

9月29日(土)13時30分~15時  
歯学研究院A棟2階歯学部講堂  
参加者19名

歯学院・歯学研究院・歯学部では、「北大の歯学教育、研究、臨床の現状―次の50年の第一歩として―」と題し、本研究院及び北海道大学病院歯科診療センター所属の教員による最新の研究や臨床についての講演会、現役学部学生による学生生活等についての報告会



八若研究院長による挨拶



各分野からの研究及び臨床報告



学生からの学生生活などの報告

を行いました。歯学部講堂で開催された講演会では、はじめに八若保孝歯学研究院長・学部長が歓迎の挨拶を述べた後、歯学研究院等の現況報告を行いました。

引き続き、本研究院等所属の各分野の教員から歯科医療及び研究の最新トピックスについて、現役の学部学生から学生生活等について報告を行いました。

薬学研究院・薬学部  
薬学部生涯教育特別講座  
秋季講演会

9月29日(土)15時30分~17時30分  
薬学部臨床薬学講義室  
参加者111名



佐久間先生

薬学部生涯教育特別講座は、薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事を従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施しています。

9月29日(土)、薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座秋季講演会を開催し、薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や教員、同窓生等111名が参加しました。

はじめにカレスサツポロ北光記念クリニック佐久間一郎氏による「生活習慣病に対する新治療薬使用の現況、新たな機器・ソフトの登場」多業種による治療介入の実



講演会の様子

吉野先生

際と薬剤師の役割」の講演があり、生活習慣病関連患者への多職種連携によるサポートについて、実際の症例と自ら開発した血糖モニタリング機器の紹介を交えながら解説いただきました。

続いて株式会社日立製作所基礎研究センターシニアプロジェクトマネージャー/北海道大学COIプロジェクトリーダー/吉野正則氏に「北海道大学COI『食と健康の達人』の目指すもの」のタイトルで、食や睡眠とQOLの向上との密接な関わりについての地域ぐるみの取組事例をはじめ、本学COIが行っている事業内容についてご講演いただきました。会場からは様々な質問が寄せられ、活発な議論が行われました。「専門的な話から日常に近い話まで、幅広い領域の話聞くことができ、有意義でした」「薬に頼らない生き方について興味深かったです」など多数の意見が寄せられました。

北方生物圏フィールド科学センター  
生物生産研究農場ミニツアー、  
植物園の見学

9月29日(土)ミニツアー  
①14時30分~15時 ②15時30分~16時  
9月29日(土)植物園/9時~16時  
生物生産研究農場、植物園 参加者59名

北方生物圏フィールド科学センターでは、耕地圏ステーションにおいて「生物生産研究農場」のミニツアー及び植物園見学を実施しました。

「生物生産研究農場」ミニツアーには27名の参加があり、センター屋上から農場全体の景色を眺めた後、ポプラ並木、放牧地及びススキ試験圃場を山田敏彦農場長が案内しました。普段間近で見ることのない農地や家畜に触れられたことが参加者には好評でした。



登録有形文化財パチェラー記念館(右)等の外観を見学する参加者たち



博物館を見学する参加者たち

また、植物園の見学には、本学卒業生等32名の参加があり、園内各所を見学しました。なかには本企画のためわざわざ道外から来園し、園内を懐かしそうに見学されている参加者もいました。

アの異なる様々な資料を比較しながら見るための展示の仕掛けや、デジタル学術資料の可能性について解説しました。学術資料を通して、ふだん見ることでできない研究者の知的営みや人となりがかがえることも参加者の関心を惹いたようでした。参加者からは、大学の博物館ならではの展示や博物館活動に期待する声も寄せられました。

一方、「博物館を楽しむ」をモットーに北大生が提案・企画・運営している北大ミュージアムクラブ Mouseion が、常設展の展示解説を行いました。今回は、2017年のイグ・ノーベル賞受賞で話題となったトリカヘチャタテや、標本をくるんでいた明治以降の新聞紙とそれらを保存する博物館ボランティアの活動について、学生が独自にシナリオを作成し、練習を重ねてこの日を迎えました。

参加者からは質問だけではなく、知識や経験に基づく貴重な情報

総合博物館

・企画スタッフによる企画展「視ることを通して」展示解説  
・北大ミュージアムクラブ Mouseion による展示解説

・企画展示解説  
9月29日(土)①13時~13時30分、15時~15時30分  
②11時30分~14時40分  
(計4回 各回20分)

総合博物館内各展示室 参加者21名

秋晴れの中、総合博物館では2つのイベントを開催しました。総合博物館夏季企画展「視ることを通して」では、展示解説を展示企画者の山下俊介同館助教が行いました。北海道大学総合博物



「視ることを通して」担当教員による解説



Mouseion による解説1



Mouseion による解説2

大学文書館では、常設展示「北大生の群像」札幌農学校遊戯会「新渡戸稲造と遠友夜学校」(会場・展示ホール)と共に、「2つの100年」記念企画展示として、「北大」の愛称100年(会場・閲覧室前)と「女性が切り開いた研学の場」女性の北大入学生100年(会場・沿革展示室)の特別展示を、9月28日(金)~9月30日(日)にわたり、公開しました。

3日間限定で閲覧室前において開催した「北大」の愛称100年では、前身校「開拓使仮学校」札幌学校「札幌農学校」「東北帝国大学農科大学」を経て、1918年「北海道帝国大学」の

開学、1947年「北海道大学」への改称に至るまでを、文書資料を中心に陳列しました。



企画展示「北大の愛称100年」



企画展示「女性が切り開いた研学の場」

**大学力強化推進本部**

**「寄附で応援！北大の研究」アンビシャスな交流会**

9月30日(日)17時～20時  
総合博物館内ミュージアムカフェほろす  
横講義室 参加者8名

全国に大きな影響を与えつつ北上する台風24号が迫る中、幸いにも予定を変更することなく「アンビシャスな交流会」を開催することができました。

本取り組みをバックアップする大学力強化推進本部小俣友輝URARAからの挨拶と取組全体の趣旨説明



寄附で実現した設備導入について説明する芳賀教授



山内教授による研究内容説明



会場の様子

その後、取組を始めるきっかけを作った遺伝子病制御研究所藤田恭之教授より、自身の経験を踏まえた、寄附で研究を推進する意義と必要性が語られました。続いて藤田教授を筆頭に先端生命科学研究所の芳賀永教授、保健科学研究所の山内太郎教授、情報科学研究科の瀧川一学准教授の4名より、研究のバックグラウンドと寄附により実現した研究について紹介がありました。

競争的資金等の通常資金で進める研究に加えて、寄附を通じて成しえる「アンビシャスな研究」への挑

**学務部学生支援課**

**北海道大学写真部  
ホームカミングデー展**

9月29日(土)10時～18時  
学術交流会館ホール 参加者80名



写真部の展示

戦は、本学ならではの未来や夢を市民と共有するきっかけとなると強く感じました。研究資金獲得の一手段として、寄附も検討されてみてはいかがでしょうか。

北大ホームカミングデー2018のwebサイト及びプログラム内に異彩を放つイベントとして登録いただいたところ、数名のOBの方にも参加登録いただくことができました。当日参加者は8名と人数面では伸びしろを強く感じたものの、非常に濃密な意見交換ができました。

開催に向けて尽力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。アンビシャス！

公認学生団体写真部が、写真展を開催し作品を披露しました。訪れた卒業生などの皆様は、部員それぞれが独自の視点で撮影した作品を興味深くご覧になっていました。

**北大キャンパスビジットプロジェクト  
キャンパスツアー**

現役北大生とめぐるキャンパスツアー

9月29日(土)13時～14時30分  
札幌キャンパス構内 参加者5名

クラーク会館を出発し、最終到着地点を高等教育推進機構としたツアーを実施しました。当日は6名の参加があり、参加者の出身学部に応じて班分けを行い、コースには参加者の要望も取り入れられました。

ツアーは、スタッフである現役の学生がコース中の学部や施設の現在の様子などを紹介し、参加者に当時の構内や学生生活の様子について伺うという形で進行しました。

参加者からは、学生時代を懐かしむ声や、当時とは違った構内の様子に驚きや感動の声が挙がっていました。現在の本学についてスタッフが参加者からの質問に答えながらも、スタッフ自身も当時の本学の姿、歴史について参加者から学ぶことができ、現役の学生と同窓生が交流を深め、共に新たな



現役生と同窓生がキャンパスを散策する様子



今のキャンパスを紹介する様子



現役学生スタッフによるガイドを真剣に聞き入る同窓生

本学の一面を知る貴重な機会となりました。

ツアー参加者の方々からは、「普段は行かないところまで案内していただきありがとうございます」「学生時代には知らなかったことまで知ることができました」「楽しい案内でした。また参加したいと思います」などの感想が寄せられました。

**北海道大学校友会エールム**

**OB講演会及び在学生との懇談会**

9月28日(金)16時30分～19時  
百年記念会館大会議室 参加者38名

百年記念会館大会議室において、「OB講演会及び在学生との懇談会」を開催しました。

OB講演会では、在学生に向けて、各業界で活躍する5名の先輩たちである



OB講演会の様子



在学生との懇談会

北大キャンパスビジットプロジェクトでは、年に数回、一般市民向けのキャンパスツアーを行っており、今秋にもキャンパスツアーを実施する予定です。今回、参加者の方々から伺うことができた本学の過去の様子なども参考にし、これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきたいと思えます。

北海道庁の森本雄介氏(法学部2008年卒)、札幌市役所の高橋健太氏(法学部2004年卒)、三井不動産株式会社の安田有希氏

9月29日(土)12時～17時  
ファカルティハウス「エニレイソウ」  
札幌キャンパス全体 参加者22名

校友会エールム保護者会員を対象に「懇談会及びキャンパスツアー」を実施しました。

懇談会では、保護者会員に対し

また、終了後の懇談会においては、幅広い年代層の卒業生にも参加いただき、企業等における実際の業務の様子など、活発な懇談が行われ、参加された在学生からも有意義な機会だったとの声が寄せられました。

当日、参加いただいた卒業生のほか、連絡調整をいただいた各基礎同窓会の皆様にも厚く御礼申し上げます。



レストランエールムでの昼食会

参加の皆様からは、「校友会エールの活動と北大をより知ることができた」との意見も寄せられ、保護者会員の皆様及び校友会エールの双方にとって大変有意義なイベントとなりました。



キャンパスツアーの様子(植物園)



キャンパスツアーの様子(博物館)

ほっかいどう同窓会  
ランチパーティー

9月29日(土) 12時~13時30分  
百年記念会館大会議室 参加者92名

者はテーブルを囲み、道産品をベースにした食事をとりながら話を弾ませていました。また、パーティーの途中には、



受付の様子



三上会長の挨拶に  
聞き入る参加者の様子



楽しそうな歓談のひとつ

ほっかいどう同窓会では、百年記念会館大会議室において北海道大学校友会エールと共催でランチパーティーを開催しました。三上隆ほかほっかいどう同窓会会長の挨拶に続いて名和豊春総長の乾杯でパーティーが始まりました。参加

東京同窓会の杉江和男会長や近藤龍夫前ほっかいどう同窓会長の挨拶もあり、大いに盛り上がりました。石山喬校友会エール会長の中締め挨拶の後、参加者は次の予定に合わせ散会となりました。

恵迪寮同窓会

寮歌の集い

9月29日(土) 16時30分~18時  
クラーク会館大会議室 参加者101名  
本行事は、札幌農学校・北海道帝国大学から続く恵迪寮精神の伝統を守り、恵迪寮歌を歌い継ぐこと、第2回のホームカミングデーから開催しています。

今回は、第1部「エールの森コンサート」、第2部「寮歌の集い」として実施予定でした。当初「エールの森コンサート」は、北大出身演奏家を招き恵迪寮同窓会と北海道大学交響楽団との共催での開催を予定していましたが、9月6日(木)未明に発生した平成30年北海道胆振東部地震の被災により、会場のクラーク会館・講堂が使用不能となってしまったため、代替施設での開催が困難と判断し中止することとなりました。



年代を超えて集い歌う



現寮生は、平成寮歌「若人よ」を披露



「花繚乱の」作歌作曲者の前島氏とはご家族とともに

精神と寮歌の継承を目指す「寮歌の集い」は、クラーク会館・大会議室で開催しました。集いには、昭和21年入寮の大先輩から平成28年入寮の現寮生まで、遠くは沖縄から、また、小樽商大の女性応援団員らも参加し、総勢100人を超える集いとなりました。明治、大正、昭和から平成に至る寮歌を老若男女が一堂に会し「寮歌高唱の宴」は2時間にもわたって繰り広げられました。昭和32年寮歌「花繚乱の」では、作歌作曲者の前島一淑氏が娘さんやお孫さんと一緒に登壇。自ら曲を紹介し、家族仲良く歌う姿に会場も和やかな雰囲気になりました。最後は、参加者全員が肩を組み、「都ぞ弥生」斉唱、次いで「別離の歌」、そして、「ストームの歌」。仲間たちとの交流を深めた「宴」の余韻が残る中、今回の再会を期して終了しました。

北海道名物

松尾ジンギスカン

松尾ジンギスカンブランドサイト 店舗情報は  
http://www.matsuo1956.jp/ こちら



新宿三丁目店(74席)

伊勢丹新宿本店 目の前!!

東京都新宿区新宿3-5-3 高山ランド会館5F

Tel 03-3226-2989

ランチ 11:30~15:00(14:30 L.O.)  
ディナー 17:00~23:30(23:00 L.O.)

銀座店(67席)

「銀座駅」・「東銀座駅」徒歩1分

東京都中央区銀座5-9-5 チアーズ銀座2F  
TEL 03-3572-2989

ランチ 11:30~15:00(14:30 L.O.)  
ディナー 17:00~23:30(23:00 L.O.)

赤坂店(121席)

「赤坂駅」徒歩1分・「赤坂見附駅」徒歩4分

東京都港区赤坂4-3-6 A-FLAG赤坂B1  
TEL 03-3585-2989

ランチ 11:30~15:00(14:30 L.O.)  
ディナー 17:00~23:00(22:30 L.O.)  
【土日祝はディナーのみ営業】17:00~22:00(21:30 L.O.)  
※ランチ帯は応相談(14名様以上で貸切可)

「新宿三丁目駅」徒歩0分  
「新宿駅」東口から 徒歩6分

来店時・ご提示で

ご飲食代10%割引券

※「北海道大学東京同窓会会員」様限定クーポンです。  
ご来店時に本ページをご提示ください。  
※他券・他割引併用不可  
※「新宿三丁目店」「銀座店」「赤坂店」でのみ、ご利用可能

回収印

情報を先取り、タブーに挑戦

政治、経済、  
社会を直撃

財界さっぽろ

東京都内で「財界さっぽろ」は次の書店で  
お求めになれます。

紀伊國屋書店 新宿本店

三省堂書店 神保町本店・有楽町店

丸善 アークヒルズ店

デジタル版  
配信中!

弊社ホームページ  
より申し込み  
ください

毎月15日発売  
北海道最大の  
部数を誇る 月刊総合誌

年間購読のお申込は、  
お電話かホームページで

財界さっぽろ 検索

株式会社 財界さっぽろ

札幌市中央区南9条西1丁目1番15号 TEL: 011-521-5151  
代表取締役社長 舟本 秀男 http://www.zaikaisapporo.co.jp/

# この雪には熱がある。 スキー場の経営に携わって

私は、最近では「雪まつり」の他に「大地の芸術祭」としても有名な新潟県十日町市という、所謂豪雪地帯と言われる田舎町の出身です。高校までをそこで過ごし、1987年（昭和62年）に文系系に入學、1991年（平成3年）に法学部を卒業してJR東日本に就職しました。現在は、新潟県湯沢町にあるJR東日本グループのガール湯沢というスキー場運営会社で経営に携わっています。

## 学生時代・躰道部

叔父が恵庭市に住んでおり子供の頃から北海道の話をよく聞いていたため、北海道に対して親しみや憧れがあり、中学生の頃から大学は北海道大学へ行こうと決めていました。無事に受験を突破しめでたく北大生になった訳ですが、やりたいことが多すぎて、文化系のサークルに顔を出してみたり、アルバイト、旅行、麻雀や同期と遊びに出かけたりというような日々を過ごしていました。特に目立つ方でもなくどこにでもいるような学生でしたが、何となく軸が定まらないまま時間が経過し、部活やサークル活動、アルバイトに精を出している友達が羨ましくな

り、また、経験したことのないことをやってみたいという好奇心から、一念発起して躰道部に入部しました。

一般の方は躰道部というクラブは、武道系ということはわかっても何をしているところかわからないという方が多いと思いますが、入部するまでは私もその一人でした。当時一般の方の目に触れる機会と言えば、道着を着て集団でメインストリートを走ったり、18条にあつた「きよた」で飲み会をしているところ位でしょうか。参考までに日本躰道協会のHPを確認してみますと、「躰道は空手ではありません。ひとたび、動きが始まったら最後まで目が離せない。いつでもからどんな技が飛び出し



躰道部夏合宿でのアボイ岳登山・前列右から2人目が本人

てくるか誰にも予想できない未知の武道。」と記載されています（これだけを読んでもやはり良くわかりませんが）。  
躰道部では練習、合宿、行事、お酒等々で仲間と中身の濃いかけがえのない時間を過ごしました。

## JR東日本入社

北海道は今でも大好きな土地ですが、別の世界を見てみたい、人

の役に立ちたい、人に感動していただけるような仕事がしたいとの思いから、当時国鉄から民営化して間もないJR東日本に可能性を感じて就職しました。今まで新潟と北海道での生活だったため、就職して初めて東京に出て来た際は人の多さや通勤に慣れるのも大変

でしたが、それ以上に雪の降らない地域での生活を寂しく感じた記憶があります。

入社後、駅勤務や旅行業等を経験してから、鉄道事業以外の生活サービス事業分野で様々な業務を経験してきました。JR東日本は事業フィールドの広い会社で、鉄

道事業や駅の開発等はもちろんですが、現在ではまちづくり、くらしづくり、海外での事業も行い、あらゆる分野の業務に携わることが可能です。異動の度に職場どころか仕事自体も全く変わってしま大変な部分もあるのですが、色々なことに挑戦したいと考えていた私には合っていた

ような気がします。仕事に慣れなくて大変な時は、本居宣長の「うひ山ぶみ」の一節、「才のともしきや、学ぶ事の晩きや、暇のなきやによりて、思いくずおれて止まることなかれ」などを思い出して頑張るようにしました（学生時代にもっとちゃんと勉強しておくべきだったとはいつも思っておりますが）。主に東京、群馬、長野で社有地の利活用、駅改良や駅構内店舗開発といった業務にJR東日本本立場で携わるとともに、グループ企業へ出向して駅構内での飲食店舗や商業施設運営等の業務にも携わり、現場でお客さまと接し、お客さまが喜ぶ姿を直接見ることができるような業務を多く経験してきました。

## 登山・スキーとの出会い

様々な仕事を経験しながら業務の傍ら趣味でスキーと登山に夢中になり、長い期間続けています。学生時代も道内に登山に出かけましたが、本格的な登山は会社に入ってから始めました。東京都の社会人山岳会に所属し、主に谷川岳や北アルプス、剣岳等でのロッククライミングや冬山登山、北海道・東日本エリアでの沢登り等に精を出しました。それと同時に20代の時に会社のスキー大会に参加して以来競技スキーにはまり、現在に至っています。元々新潟の出身で、小中高と冬の体育の授業はスキーだけという環境で育ったのでスキーには少しばかり自信があったのですが、我流の滑りでは会社の大会でさえ全く歯が立た



JR東日本グループ  
株式会社ガール湯沢  
代表取締役社長  
**柳 隆夫**  
(H3・法学部卒)



商業施設メンバーとの陸前高田市長部小学校での炊き出し(前列左から4人目が本人)



お礼の色紙

そんな中で強く印象に残っているのは、北陸新幹線金沢開業前に赴任した長野支社で、新幹線が長野から金沢まで延伸することに危機感を感じていた地元の方々と一緒に、長野駅の改良、開発計画を作成したこと、東京駅の商業施設勤務時代に発生した東日本大震災に関し、過去にイベントでお世話になった岩手県の方々にも少しも恩返し



愛すべきガーラ湯沢スキー場の仲間たちと(左端・前から4列目付近が本人)

部分が数多くあります。代表的なところでは、安全の確保に向けた取り組みですが、深夜・早朝の圧雪やパトロールによる雪崩の処理やゲレンデづくり、毎日ではあり

ませんが天候が悪くなる事が予想される場合の営業を判断する早朝の営業判定会議等があげられます。また、「冬以外は何をやっているの?」という事を非常によく聞かれますが、プラスチック製の人工スノーマットを活用したサマー営業を7月下旬から9月までの土休日に実施している他、来るべき次のシーズンに向けた事業計画立案、設備のメンテナンス、営業メニュー作成、国内外でのセールス・販促活動、アルバイトの採用活動等といった「仕込み」の部分で次のシーズンの成否を左右する非常に重要なファクターとなります。冬の営業期間にどうしてもスポットライトが当たりますが、冬以外の期間、また営業時間以外の時間についても、多くの社員、スタッフの努力やチームワークに支えられてスキー場の営業が成り立っております。

思いで起業し苦労して築き上げてきたガーラ湯沢という会社を更に発展させ、次代につないでいくことに尽力していきたいと思えます。



ガーラ湯沢スキー場展望台から湯沢町の町並みと谷川連峰

部分が数多くあります。代表的なところでは、安全の確保に向けた取り組みですが、深夜・早朝の圧雪やパトロールによる雪崩の処理やゲレンデづくり、毎日ではあり

ませんが天候が悪くなる事が予想される場合の営業を判断する早朝の営業判定会議等があげられます。また、「冬以外は何をやっているの?」という事を非常によく聞かれますが、プラスチック製の人工スノーマットを活用したサマー営業を7月下旬から9月までの土休日に実施している他、来るべき次のシーズンに向けた事業計画立案、設備のメンテナンス、営業メニュー作成、国内外でのセールス・販促活動、アルバイトの採用活動等といった「仕込み」の部分で次のシーズンの成否を左右する非常に重要なファクターとなります。冬の営業期間にどうしてもスポットライトが当たりますが、冬以外の期間、また営業時間以外の時間についても、多くの社員、スタッフの努力やチームワークに支えられてスキー場の営業が成り立っております。

り、大変感謝しています。最近では、1998年に1800万人だったスノーリゾート人口が2016年には530万人までと約3割に減少し、少子高齢化の進展に伴い働き手の確保が難しくなる等スノーリゾート事業を取り巻く経営環境は厳しい状況が続きます。その反面インバウンドのお客さまの増加等のプラス要素もあり、環境変化への対応、気づきの感性、そして新たなことに挑戦するチャレンジ精神が非常に重要になっていっていると考えています。

北海道のスキー場と比べると雪質や規模は劣るかもしれませんが、新潟にもバラエティに富んだスキー場がたくさんありますので皆さまに足を運んで頂けると幸いです。

ず、それ以来競技スキーの練習には力を入れてきました。こんなことなら学生時代に北海道という恵まれた環境にいたので、もう少しスキーをちゃんとやっておけば良かったと思いましたが後の祭りです(勉強とい趣味とい後悔ばかりです)。そんな中で出会ったのが越後湯沢のガーラ湯沢スキー場です。元々JR東日本グループのスキー場でしたので利用したことはありましたが、新幹線のガーラ湯沢駅に直結しているのが首都圏からも行きやすく、競技向けのポールレックスも含めスクールが充実していましたので、30代から40代にかけて、冬の期間はかなりの日数をガーラ湯沢スキー場に通って練習していました。

ガーラ湯沢スキー場は、地元JR東日本社員の発案、アイディアにより、社内ベンチャーの魁として、上越新幹線のガーラ湯沢駅と合わせて1990年12月に開業したスキー場です。それこそ、プロジェクトに携わった社員の熱い思いで開業に至ったJR東日本グループの最初のリゾート開発案件と言えます。ガーラ湯沢駅と直結したスキーセンターからゴンドラ

ラで約8分、標高約800mから1181mの高津倉山山頂までのエリアに中央、北、南エリアと初心者から上級者まで楽しめる多彩な3エリア、17コースを有し、今では最長滑走距離2500mの滑走も楽しめます。また、隣接する湯沢高原スキー場、石打丸山スキー場ともゲレンデ上部でリフト、ロープウェイでつながっており、3スキー場を合わせて「BIG MOUNTAIN湯沢スノーリンク」という名称で共通リフト券も販売しています。北海道のニセコユナイテッドのような大規模なエリアとは規模や知名度等で比べものになりませんが、全48コース、高低差約900m、幅約5kmの滑走エリアを有する地域最大級のエリアになります。

営業ができるように下山コースを整備し、インバウンドのお客さまの増加等多様化するお客さまニーズに対応したメニューや旅行商品を整え、JR SKI SKIの広告展開や海外を含めた販促を充実させることにより、現在ではオープン時に匹敵するお客さまにご来場いただけるようになってきています。



趣味の登山で山岳雑誌の表紙に載りました

JR東日本大宮支社で働いていた時の上司から、何の前触れもなくガーラ湯沢での勤務を命ぜられたのは2015年11月でした。スキーをやっていた、出身地にも近いということでした。スキー場の仕事に興味はありましたが、実際に働くことになるとは思ってもいませんでした。山やスキー場に囲まれた環境での勤務ということで、周囲からは「天職だな。」とか「仕事もちゃんとやるように。」とかからかわれながら送り出され、同年12月から勤務しています。

スキー場の仕事はお客さまに感動を与えることができる仕事であり、やりがい、喜びそして誇りを感じています。ガーラ湯沢スキー場はお客さま、地元、取引先、グループ等々多くの皆さまに支えられて、おかげさまで今シーズン、29年目のシーズンを迎えています。これからも熱い気持ちと感謝の気持ちを忘れないで多くのお客さまに喜んでいただけるスノーリゾートにしていくこと、そして先輩方が熱い

参考までに、現在は来場者の20%弱が台湾、香港等の中華圏、タイ、インドネシア等の東南アジアを中心とした海外のお客さまで占められるようになってきていますが、そのような雪の降らない地域、国の方にもお楽しみいただくために、ソリ遊び、かんじきツアー、スノーモービルによる雪景色遊覧ツアー等の雪遊びメニューの充実、英語、中国語、タイ語によるスクールの開校、地元施設とタイアップした観光ツアーの実施等従来のスキー場の枠にとらわれないメニューも提供しています。私自身このような仕事を通じて、学生時代には無縁だった国際性の涵養に新潟のスキー場で苦勞しながら取り組んでいます。

# 人工クモ糸開発ベンチャー 会社と共に挑戦の真っ只中

Spiber株式会社  
知的財産室 マーケティング部門  
内部監査室  
石井 孝興  
(H25・総合化学院)

平成25年総合化学院単位取得退学(翌年学位取得)の石井です。ベンチャー企業 Spiber に入社して3年半程度ではありますが、これまでを振り返ると本当にいろいろ

なることがあり、もう10年近く経ったのではないかとこの錯覚に陥ります。

少し、入社前の話をしますと、Spiber が今よりもずっと有名でなかつた時期に私は就活の時期を迎えていました。当時新しい素材の開発に携わりたいと漠然と考えているなか、当社代表執行役の関山が就職説明会のプレゼンでクモ糸が鋼鉄の数百倍もの驚くべき丈夫さを持つことや、糸・フィルム・スポンジを基本材料として、自動車の材料や医療材料などを開発し、ものづくりの概念を変えていくという話をしていたのを聞き興奮したのを覚えています。単純ですが、すぐに入社したくなり応募しました。実を言うと、私は一度書類審査で落ちました。しかし、こんな面白い仕事に簡単に出席することは無いと思い、再挑戦の機会を懇願しました。それだけこの技術に魅せられていたのです。結果、面接まで進めていただき、熱意が伝わり入社に至りました。

会社としては甘い対応だと思われるかもしれませんが、私は今でも機会をいただいたことに感謝しており、会社に何か残したいという強い思いを持っています。

## Spiber社 理化学研究所での研究生活

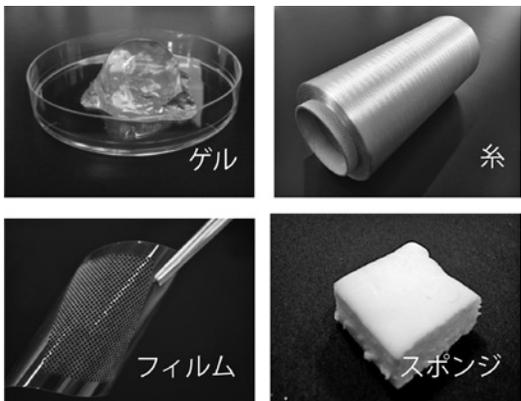
Spiber社は微生物にクモ糸などの遺伝子を与え、増やすことで人工的に作り出されたタンパク質を素材として扱うための研究を行っています。何億年もの歳月をかけてクモ糸は工業材料も含めて世の中で一番と言われるくらいタフで丈夫な糸を作るようになりました。バッタのような昆虫は自身の体の何倍もの高さに跳ね上げるための、ゴム状のタンパク質を持つています。また、アリの一部は金属にも匹敵する硬いタンパク質を有します。こうした材料を産業化していくことを一つの目標に掲げています。

私は、入社してクモ糸タンパク質を原料とした樹脂やフィルムに

関する研究を行いました。また、高濃度のタンパク質を高温高圧下で水に溶かす研究に携わる機会をいただきました。どれも時間を忘れて取り組みました。新素材を対象にしているため、研究としては難しい面もありましたが、誰にもほとんど開拓されていない分野を扱うだけあって日々発見の連続でした。



Spiber株式会社本社



人工蜘蛛糸タンパク質からつくられる素材

多くのことを学ばせていただき、通常であれば本社に戻ってからも、さらに研究を続けるつもりですが、当時、私は一度きりの人生で研究以外にもいろいろなることに挑戦したいという思いを募らせていました。大学院在籍時、化学と並行して経営学を学んでいたのも、それを活かせる部門に異動したいと会社にお願いしました。おそらく会社には研究部門での活躍を期待されていたと思うのですが、予想に反して希望を聞いていただけました。今では、会社の知的財産とそれに関する会社の戦略に携わる仕事に取り組んでいます。国の省や庁と直接関わる仕事もいただき、自分が担当者で大丈夫かと思うこともありますが、何とか努力し乗り切りたいと思っています。

## 大学院で複数の専門を持ったことが自身の強み

博士後期課程進学前、私は理学院に所属していましたが、自分には特別な化学の才能があるわけではなく、別の強みを持たないと社会では活躍できないと感じていました。自身の将来を案じている時に、当時、総合科学院と小樽商科大学の間で新設される「MB



オーストラリアで蜘蛛を探している最中に、ハリネズミを見つけて喜んでいるところ

A特別コース」(研究開発能力と経営視点を持つ人材を育成するためのプログラム)で学ぶ機会をいただきました。コース入学の際には、所属研究室の仲間ほぼ全員に止められた方が良いと言われましたが、無理して突き進みました。今思えば多くの人に迷惑をかけてきたと思います。ですが、経営学を学んでいたおかげで、会社の多くの部門に関して接点を持つことができており、また、複数の専門を持つことが心の拠り所となっています。心から参加してよかったと感じています。お世話いただいた教職員、事務の方々に、そして仲間には感謝してもしきれない思いです。

## Spiber自分のこれから

これから、会社も自分も勝負の時を迎えると感じています。技術の競争は数年前と比べると明らかに激化しています。競合企業も油断できないような内容の特許を出願してくるようになりました。また、タイにタンパク質の量産工場

を建設するということが決まり、すでに動き出しています。ここで大量に生産されたタンパク質原料を、国内で衣類や自動車材料などに加工する計画です。加えて、会社から商品を通じて世の中に出荷する時期がもうすぐそこまで迫っています。それに合わせて組織も人も大きく変わっていくことは明らかです。こうした激動とも言える状況で働けることはベンチャー企業の醍醐味ではありますが、今後皆で一層頑張らなければならぬと感じています。私自身は、周りの方々に助けていただき、ここまでなんとかやってこられたと感じています。これからは、少しでも周囲に良い影響を与えられるよう、自分を磨いていきたいと思っています。



# 北大マルシェ営業中!

北大マルシェCafe & Laboは2017年11月、北大内にオープンしたレストランです。空きになっていた百年記念会館1階を改修した、木とレンガの温かみに包まれたちょぴりレトロな空間です。単なるレストランではなく、館内に乳製品の工房を設けています。北大の中には他にもレストランがあるうえに、学生食堂もたくさんありますが、なぜここにこのような特徴を持った店をオープンさせたのか。それには私が持つ大志が関わっています。



北大マルシェ外観

株式会社北海道農村研究所  
副社長業務執行役員  
**宮脇 崇文** (H28・教育)

## ◆北大農場

札幌キャンパスには広い広い農場があります。技術職員さんや学生たちの日々の努力によって様々な農作物が生産されています。なかでもひと際目を引くのが、大きな牛たちが放牧されている光景です。悠久の酪農地帯を思わせる牧草地の広がりからフツと目を上げると、すぐそこにはJRWタワールを始めとするビル群が。こんな環境は他にはありません。夏はこの牧草、冬は干し草や北大内で生産されるデントコーンなどを与えられ、のびのびと育つ牛たちからもたらされる牛乳は、エサがもたらす季節ごとの風味や色合いを楽しめる特別なものとなっています。そして何より、美味しい。北大農場はすごいなあと更に学びを深めていくと、この牛たち、なんと明治22年に日本に初めて輸入されたホルスタインの血統を受け継ぐ牛たちだったのです。



北大農場の牛舎にて

こんなに面白い酪農が北大で行われているとは、自分の学生時代知る由もありませんでした。

聞くところによると、北大農場産牛乳は道内の乳業メーカーに安価で買い取ってもらい、他農場の牛乳とMIXされて販売されているとのことでした。面白いストーリーがあり品質も素晴らしいこの牛乳にはもっと別の扱い方があるのではないだろうか。より多くの人にこの魅力を知ってもらいたい。このような志が北大マルシェをオープンさせた原動力です。現在は乳業メーカーの1.5倍の値段で北大農場から生乳を買わせていただき、その生乳を店舗内にあ

る乳製品工房で加熱殺菌処理をして飲用牛乳としています。加えてモッツアレラチーズとフロマージュ・ブランの2種のフレッシュチーズにも加工しています。青草を食べて育った牛から絞った牛乳を加工し、お客様へ届けること、その全てのステップを大学内で完結させるための最良の一手がこの北大マルシェなのです。

## ◆北大マルシェOPENへ

プレオープンまでは恐ろしく忙しい日々が続きました。関係者との打合せやアルバイトスタッフの採用活動、必要な物品の調達、取引先への挨拶など、早朝から深夜までとにかく動き回る日々でした。関係者と探めて、一時はオープンできないのでは…と心配したことも。しまいにプレオープン前々日に百年記念会館内の排水が逆流し、店内が下水まみれになる事件まで起きました。鼻血を垂らしながら朝の4時まで清掃し続けたことも思い出です。

やっとの思いでこぎつけた2017年8月23日のプレオープン。11月にグラントオープン控え、それまでは広報活動は一切しない状態のいわゆるサイレントオープンという手段をとりました。



NHKの取材の様子

やっとならオープンできた、一安心…と一息つく間もなく、お店を動かしていく中どんどん新しい問題が見つかっていきます。飲食店でのアルバイト経験や勤務経験のない私は、飲食店の運営を完全に甘くみていました。お客様を長時間お待たせすることなく美味しい料理や飲み物を提供するために、どこに何人誰を配置するのが良いのか。どのように動いてもらうのが良いのか。そのあたりの想定が曖昧なままにスタートしてしまつたため、結果お客様をお待たせすることも多く、スタッフからも不満の声が多数届きました。「こんな店は1年持たずに潰

れる」なんて言葉も内外から聞かえてきます。身近に指導をしてくれる人はいません。どちらかというと小言を言う人ばかりで現場にストレスが募る一方です。スタッフたちを守るため、そしてせっかくだけを提供している北大牛乳とチーズをもっと楽しんでもらうため、お店のことを考えひとつひとつ改善していく以外に道はありませんでした。それでも自分の意志に賛同して力を貸してくれるスタッフが多く、みんなの力で一歩ずつ前進。今ではテレビや新聞、雑誌等で大きく扱ってもらえるような店に成長しました。

## ◆これからの北大マルシェ

私は北海道大学が大好きです。祖父が農学部で教鞭を執っていたこともあり、幼いころから構内を訪れる機会が多くありました。大学進学時にも迷わず北大を志望、いわゆる滑り止めは一つも受験せず北大だけを目指して勉強に励みました。

北大は本当にいいところです。在学中は運動部に所属していたため様々な大学に遠征に行きました。が、キャンパス内で小さな子どもからお年寄り、観光客など多くの人が緑に触れ、雪に触れ、思い思いの時間を楽しんでいる光景は北大でしか見たことがありません。



北大マルシェのスタッフたち

札幌市民だけではなく、本当に多くの人に愛されている場所です。明治9年から続く北大農場、第2農場、緑溢れるメインストリート、イチヨウ並木、中央ロイン：すべてがみんなのための財産です。

先人たちが築き上げてきたこの場所を良くするも悪くするも今を生きる自分たち次第です。大学ランキングだけが大学の価値ではない、ボールパークだけが人を集める手段ではない。みんなで力をあわせて北大の歴史を守り、新たな財産を築いていきましょう。

北大マルシェがその一つになるよう、これからも頑張ります。



# 実践力と人間力で勝負！

## スケート部で培ったチャレンジ精神

株式会社トクヤマ  
代表取締役  
**横田 浩さん**  
S60年経済学部経済学科

アイスホッケーをやるために憧れの北大へ

生まれも育ちも札幌で、小学校では地元のアイスホッケーのチームに入っていました。札幌旭丘高校にはアイスホッケークラブがなく、高校時代はプレーをしていませんでした。大学受験は北大でしたが、不合格の発表を見た足で予備校の申込みをしました。予備校に通い始めると人が変わったように猛烈に勉強して、夏前には完了。翌年無事に北大文2系に入学すると、教養食堂2階ですぐにスケート部に入学しました。

北大スケート部は道内では常に1位か2位の伝統ある強いチームでインカレの常連校です。私が高校生の頃は特に強い世代で、関東学生1部リーグのチームとも互角に戦うほどでした。小中学生の頃からアイスホッケーに親しみ、北大でプレーをすることに憧れていた

ましたので入部に迷いはありませんでした。

同期は9人、自分は経験者でしたので、1年生からレギュラーでしたが、初めての練習では、受験で鈍った体で勢いよく中外（ちゆうそと）コースをランニングしたものの、大息が出て直ぐの工業試験場付近で息が上がって、走れなくなりました。はいいい思い出です。

### 大学生生活を懸けた伝統のスケート部

スケート部の主要な大会は、7帝戦と道内リーグ戦、インカレ、そして、実業団チームも参加する全道選手権です。春から夏にかけてはインターバル走や長距離走など厳しい陸トレとトレセンでの筋トレで、お盆過ぎからスケート靴を履いた本格的な練習です。

シーズンの皮切りは釧路の十条製紙での合宿。この合宿には関東の強豪大学も参加し、早稲田大学



などとの合同練習はいい力試しですが、朝・昼・晩3回の厳しい練習は1年生にとっては相当辛く、ほとんど食事が喉を通りませんでした。前期試験後の10月〜11月は、今はなくなった雪印リンクで日中の週3〜4日の氷上練習、さらに市内のリンクで週末を含めた空き時間にスケイティングの滑り込みです。多い時はスピードスケートのトラックを一日に80kmも滑りました。これらに加えて、苦小牧の王子製紙のリンクなどで金曜日から日曜

日までの3日間の合宿が3〜4回行われます。この間はほとんど授業を休んで練習です。12月20日過ぎにインカレが終わりますが、その休みの間、陸上競技場脇のアメフトの練習場でのリンク作りに励みます。厳寒の毎夜中に何度も何度もグラウンドに水まきを繰り返し、1月2日からの練習開始に備えます。1月半ばからはトレセンでの約1カ月の合宿です。朝5時起床・5時半から朝レン、昼間は授業に出られますが、夕方16時過ぎから練習、そして毎晩9時から全員ミーティングでした。

当時のスケート部は冬の間、クラブ中心の生活となり、実験や履修科目が多い理系の人たちのドツペリ率は異常に高く、留年覚悟の先輩はざらでした。私が入学した

年の春に卒部した先輩は8人いましたが、そのうち2人が放校と聞いて、さすがに驚いたものです。北大スケート部は1895年創部の日本のアイスホッケーの発祥で120年を超える歴史があり、

戦後の一時期は王子製紙に胸を貸していたそうです。そうした伝統を背多つて道内学生リーグ優秀やインカレ上位を目指し、部員皆が大学生活のほとんどを懸けて練習に打ち込みました。放校になった

方の中には、その後に北大歯学部や札幌医大に入り直して、勉強に励み成功している方もおられます。その切り替える能力とか集中できる地頭の良さには感心しますし、北大らしさを感じます。

### トクヤマとの出会いは人事部戦略で完落ち

大学には毎日行っているはずですが、過ごした時間はほぼスケート部の練習と居酒屋「きよた」でしたので、4年生の時にはまだ40単位が残っていました。すでに学科の同期は概ね単位は取り終え、頼る仲間もいなくなっていたので、4年生にして初めてノートを受に貸すほど真面目に授業を受けました。

経済学部でしたが、もともと理系科目や化学が好きで、もの作りに関心がありましたから、就職先はメーカーと決まっていた。

会社選びの基準としては、財閥系や大会社ではなく、これからの成長を感じる会社と考えていました。当時はコンピューターが社会に広がりがついていたので、日本で初めて大規模に高純度多結晶シリコン（シリコンウエハーの原料）の製造に取り組んでいる「徳

山曹達」のページが目が止まりました。また、どつぶり「北大」という輪の中で生活してきたので、北大の「色」がない会社で勝負してみたいという漠然とした思いもあり、自然と道外の会社に興味を持っていました。

札幌支社で面接を受け、なんと山口県徳山市（現在は周南市）にある本社・工場の見学の話が進み、断わり切れずに航空券を渡されました。本社人事部では予定していた方に急用ができて、代わりにの担当者に対応してもらったのですが、工場見学もそこそこ街見学と雑談をしただけで、夕食に連れていかれました。

夕方16時半ごろから徳山市街の飲食店や飲み屋を案内され、その数約10軒。お店の在席時間はせいぜい1時間程度で次から次と梯子酒。結局、終了したのは朝4時頃でした。

北海道に戻ると早速、札幌の支店次長から電話があり、指定された場所はエスカイアクラブ。パニーちゃんを初めて目にし、その後は朝5時まですすきのお店を転々し、「うん」と言うまで帰してもらえませんでした。

後からわかったのですが、本社の対応は札幌支店次長からの指示で、朝4時まで「会社説明」を



### Profile

1961年北海道生まれ。1985年北大経済学部経済学科卒、同年徳山曹達株式会社（現株式会社トクヤマ）入社、2002年01革新推進本部主席、2003年ファインケミカル営業部主席、2008年ファインケミカル営業部部長、2010年機能性粉体営業部部長、2014年執行役員特殊品部門長、2015年社長執行役員、同年代表取締役社長執行役員。



してくださった本社労務課の方は支店次長の元部下でした。ちなみにその方は現在の会長です。ほかの会社からもいくつか内定をもらいましたが、こうして、完璧に徳山曹達・採用チームの戦略通りに入社することになります。

### 工場で築いた現場とのつながり

最初の配属は本社工場の労務課です。採用の時に私の工場見学を担当して下さった方が初めての上司になりました。この工場での5年間の勤務経験は、その後の仕事においても役に立ちましたし、この職場でスタートしたから今の自分があると思っています。

工場勤務で得た最も大きなことは、工場の人たちと山のような人間関係を築けたことです。現場にたくさんの方の知り合いがいて、キーマンを熟知していたことは、営業成績も上がりやすく、大変大きな武器となりました。役職がなくても臆せず交渉し、納期的に無理な受注案件も現場の人たちのお陰で何度も助けてもらいました。

苛性ソーダの販売をしていた時代は、顧客要求とコストダウンを両立するため、現場に直訴して、日曜日に出勤し、船積み出来る体制に変更してもらったことがあり

営業において「顧客満足」についてはいろいろ考えさせられました。お客様のすべての要望に応えることがビジネスではないと思いましたが、ストリートに要求してくる欧米のお客様とどこで折り合いをつけ、そして、できるだけ高い値段で契約するか、開発営業のやり方を学び大変鍛えられました。

### 社会に貢献できる新しいビジネスを目指して

2000年以降はずっと、少数でマイナーな部署を歩きました。いつも「やめちまえば」と言われている事業の辞令を受けるのですが、どの部署でも結果的にはいいビジネスに変えました。小規模だからこそ製造や開発も含めた全体を把握することができ、改革できたのだと思います。全体が見えると改革のアイデアが浮かびますし、リーダーシップを発揮することが出来るのです。

要は本気で仕事に向き合い、製品を本気で好きになれるかです。その気持ちこそが一番大事なことだと思います。この約20年の経験は自分にとって大きな財産になっています。

これからの展望としては、コモディティと言われる基礎化学製品の製造・販売を今まで以上に効率化して続けながら、付加価値の高

ました。日曜日に現場が稼働していなかった当時、お客様の要望は月曜日朝一の納入でしたが、そのためには土曜日に荷を積み、日曜日に滞船させる必要があります。それはどこの会社もやりたがりませんでした。しかし、日曜日に荷を積み滞船料をかけずに顧客の安定稼働要求に応えることが出来、他社がやらない分、ずいぶん新規受注が取れました。基礎化学品は他社製品との差別化がしにくいので、物流面での効率化は予想以上のインパクトで、大きな成果を上げました。

8年間の営業の後は業務システムの仕事に2年間携わりました。インターネットや高速光回線の普及で業務改革が流行った頃です。しかし、スイッチも分らないほどパソコン音痴でしたし、システムの分野は一番苦手でした。この異動は、当時生意気だったわたしへのお灸だったと思います。

WebEDIを導入し、全国の販売店や商社からの発注をインターネットで受け、業務のペーパーレス化と取引明細の電子化を図り、社内を受注センターを作りました。新しいシステムを使ってもらうためのお客様へのお願いや説明などで深夜になる日が続きましたが、無事プロジェクトをやり遂げ、ファイナンス部に移ることと

いファイナンス部はケミカル分野、特にエレクトロニクス周辺の材料の拡大と、ヘルスケア分野のビジネス化を進めていきたいと考えています。2016年に制定した「会社のビジョン」の中で、「化学を通じて暮らしに役立つ価値を創造する」というテーマをトクヤマの「存在意義」として掲げています。人の暮らしに役立つことを目指す上で、病気になるない身体作りをサポートするというアプローチでヘルスケアの研究を進めていこうとしています。

この分野はまだまだ可能性、将来性が見込める領域です。結果が出るには長い年月がかかると思いますが、北大を含めた研究機関やベンチャー企業を持つバイオテックノロジーや発酵技術などと当社が培ってきた技術を融合し、新しい開発を目指します。

### 北大生、若い卒業生へのメッセージ

会社の中でも時々感じますが、与えられた仕事に就いて、十分に分かるまで動けない人がいますね。しかし、実践しながら学ぶのでなければ本当の力は付きませんし、効率も上がりません。学校でやってきたように、たつぷり勉強した知識でお客様に向いて行っても、それで買ってくれる保証なんてありません。

なります。

### 事業部の改革、製薬開発海外の開発営業で学んだこと

それまで、当該事業の売上は60億・利益25%位でしたが、異動辞令を受けた時は、製品ライフが終わる商材が多かったために、その年の決算では売上40億・利益トントン、その翌年は赤字を出すほどにほとんど収益は落ち込みました。一時は事業撤退も検討される状況でしたが、部をあげて事業改革に取り組み、当社の強みが出る付加価値の高い製品に生産を集約することで業績の回復を図り、5年かけて事業を立て直しました。

その代表格のプラスチックメカネに使われる材料は、当初は10数億の売上規模でしたが、太陽光で色が変わるフォトクロミックレンズ材料として、今では世界2位のシェアを誇ります。

当時はつくば研究所や鹿島工場に毎週出向き、2年後の製品発表に向けた開発を進めながら、お客様からの評価に対する品質改良に取り組みしてもらいました。お客様との定例会議が近くなると技術資料と一緒に作成し、サンプルを絶対に仕上げてほしいと檄を飛ばし、研究所のメンバーには徹夜で頑張ってもらいました。また鹿島工場では、注文が減り製造設備が余っ

開発もマーケティングもお客様と直に話し確認する作業が絶対に必要です。お客様との対話を通じて知識が定着し、新たな学びや閃きが得られるものです。欧米で開発営業を始めた頃の英語は、本当にインチキ英語でした。英会話学校などで学ぶ時間はもないので、とにかく自分で英語の資料を作って、下手な英語で話し、会話が通じなければホワイトボードに書いて説明しました。相手に身振り手振りを交えながらも本気で伝えようとすれば何とかなるものです。仕事に必要なことは、勉強しながら熱意をもって実践することだと思っています。

自分がそうしたやり方で仕事をさせてもらったことは、とても価値のあることだと思っています。



ている状態でしたので、コスト・原価の削減に取り組んでもらいながら少量多品種の製造に対応すべく様々な努力をしてみました。そして、自分自身も営業課長として、大きな営業の転換を図ります。プラスチックメカネの需要は海外の方が圧倒的に大きく、当時、海外販売は大手商社に任せていました。しかし、海外のメカネメーカーと直接取引することで、顧客ニーズを的確に把握できること、そして中間マージンをカットすることで従来よりも自社利益を確保できるという判断に至ります。社内上層部の強い反対を押し切って、長年続いた商社との関係を切り、自社で直接販売する戦略に転換しました。

完全に直販できるまでには4年かかりましたが、その間は、まったくできない英会話の勉強から、経験したことのない海外での開発営業、契約交渉まですべて自分たちで考え実行しました。

弱小事業部で予算も厳しかったので、出張の時はいつも日本語が通じない飛行機の、変更の効かない一番安いチケットで移動し、休みもななくどつぷり働きました。一緒に同行してくれた技術者や、研究所や工場の仲間の協力があつたからできたことで、彼らのことは同僚というより戦友だと思っています。

北大生のいいところは、チャレンジする力を持っているところ、実践力あるいは人間力の面で、実践力ある人が多いと思っは負けない人が多いと思っは極論ですが大学での4年間の勉強は、会社なら1年位でやり終える程度です。逆に言えば「頑張れる力」をもっていることの方が大事です。

何でもいので、何かを徹底的にやってみることがいいと思っす。クラブ活動に打ち込むのもいいですし、英語を学びたいなら外国人としか話をしない生活をしてみるとか。目標に向かって徹底的にやってみて、成功と挫折を経験し、きつとそこで得るものがあると思っす。そうして自分を鍛えて人間力を養ってほしいと思っす。そして、知識を高める努力もしてほしいです。チャレンジする気持ちの源は好奇心だと思っすが、好奇心が起るには知識と感性が必要です。ベースとなる知識は身に付けてください。

要領の良さとか省エネスタイルで仕事をする人がいますけど、場数や経験がある人には敵わないものです。本気になって取り組むことが一番大切なことだと思います。スマートじゃないと言われても、北大らさで勝負すればいいと思っす。明らかに北大ってわかる位でいいじゃないですか！



# 札幌、東京、そしてアマーストへ(前編)

わたしのフロンティアスピリット

## 1 私の履歴

私は現在、米国マサチューセッツ州アマースト市にあるマサチューセッツ大学アマースト校経済学部(以下、UMass Amherst)にフェニシア(終身雇用)付き教授

として勤務しています。

北海道大学経済学部を90年3月に卒業後、一橋大学大学院経済学研究科に進学し、96年2月に一橋大学博士(経済学)を取得しました。その後は、大阪大学社会学部

道大学とは大変に関係が深く、その歴史は札幌農学校(現道大学)の創成期に遡ります。UMass Amherstの前姿であったマサチューセッツ農科大学教授のウィリアム・クラーク博士が札幌農学校の初代



マサチューセッツ大学アマースト校経済学部教授  
**吉原 直毅**  
(H2・経卒)



万里の長城より(2004年6月、公共経済理論学会の国際会議にて)

と、それぞれ約2年間ずつ、助手、助教授として勤務し、99年10月から2016年2月まで、一橋大学経済研究所で、准教授、教授として勤務してきました。UMass Amherstには16年2月末から勤め始めました。最初は3年契約の准教授としての契約でしたが、16年10月にフェニシア付き准教授の身分となりました。その後、18年9月に教授に昇進し、現在、米国で働き始めてちょうど3年になるうとしています。

ご存知の方も居られるかもしれませんが、UMass Amherstは北海

道大学とは大変に関係が深く、その歴史は札幌農学校(現道大学)の創成期に遡ります。UMass Amherstの前姿であったマサチューセッツ農科大学教授のウィリアム・クラーク博士が札幌農学校の初代学長として迎えられ、現在の北海道大学の骨格を創り上げ、本学のモットーである「フロンティア・スピリッツ」もクラーク博士の薫陶の賜りものでした。クラーク博士は米国帰国後、マサチューセッツ農科大学の学長も勤め、創生後の歴史もまだ浅いこの大学の基礎をも築いております。そのような背景もあり、両大学は早くから提携関係となり、様々な学生交流の制度を充実させてきております。

私が北大経済学部の学生だった頃、現在とは異なり、海外の大学との提携関係がまだ充実しておらず、学生交換プログラムも殆どなかったのですが、UMass Amherst経済学部との学生交換制度はすでに存在していました。UMass Amherstの経済学部は、60年代後

## 2 北大生だった頃の事

経済学部OB/OGの方々によくご存じだと思いますが、経済学には近代経済学とマルクス経済学という大きな2つの学派が存在し、現在では、前者はいわゆるミクロ経済学・マクロ経済学などの科目に相当し、後者はマルクス派を含む政治経済学、ないしは社会経済学と称される科目に相当

## 3 わが人生における最初の大きな賭け

私の表面上の経歴情報だけを見たら人たちは、しばしば、極めて順調にキャリアを積んできた人であるように、私は見られることが多いようです。また、一橋大学経済研究所での恵まれた学者生活から、50近い年代で急に「競争の激しい」米国の研究大学に、職を替えた事には、これまで殆ど前例

見られぬ行動だっただけに驚かれる方も多かったように聞きます。確かに表面上は順調な人生を送ってきたように見えるかもしれませんが、決してスムーズに順調一辺倒な人生を送ってきた訳ではありません。ただ言える事は、人生のどこどころのターニングポイントで、北大出身者のモットーである「フロンティア・スピリッツ」を発揮させ、あまり後先を考えずに人生を賭けた大胆な勝負に挑んできたな、というのはあります。その点を、これから少しお話ししたいと思います。

私は北大学部生時代、主にマルクス経済学の勉強をしておりました。唐渡興宣先生(現在、北大名誉教授)のゼミに所属して、マルクス『資本論』の精読の日々を過ごしておりました。唐渡先生の資本論講義はコンパクトにポイントを押さえる、私にとっては名講義であり、私が現在に至るまで、『資本論』解説を専門とする研究者の方々と議論や学術的交流ができるのも、先生のゼミでマル経理論の基礎をしっかりと学んだお陰です。他に浜田康行先生(現在、北大名誉教授)のゼミでも2年間、勉

強させて頂いたとき、そこではヒルファディング『金融資本論』の輪読と共に、現代資本主義論への学問的関心を創発させて頂きました。3年時の浜田ゼミ合宿で、私は「スタグフレーション論」というタイトルで研究報告をさせてもらったのですが、その準備の為の勉強が、現代資本主義の解明という学的課題への関心を持つ契機となり、その後の私の研究者人生における大きな分岐点となりました。

人生初の経済学の授業を先生の講義で学ばせて戴いた縁もあって、しばしば研究室に私淑させていただき、「マル経も近経も、経済学も政治学も」という先生の広範な学問的スタイルに憧憬を抱き、様々な刺激を戴いてきました。私が現在、専門の研究分野の1つとする数理的マルクス経済学に関心を持つに至ったのも、線形代数の分析技術を使って「国際価値論」について論じた当時の先生の最新研究に触れて、非常に新鮮な驚きを受けたのが出発点でした。また、私のもう1つのコアの専門分野である厚生経済学・社会的選択理論の存在を知ったのも、先生よ



唐渡ゼミ(本人は前列左から2人目)

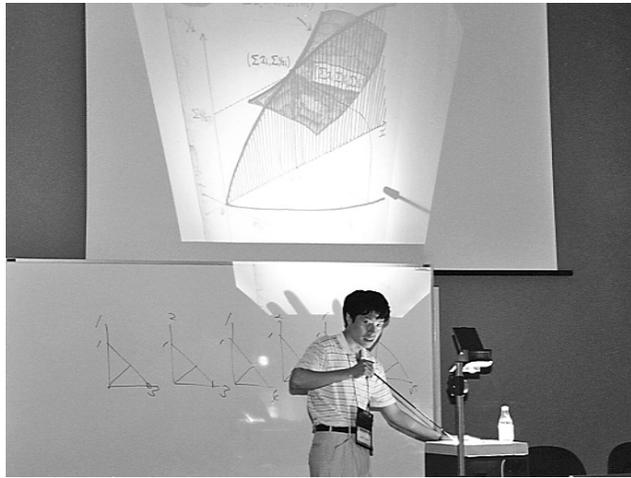


浜田ゼミ(本人は後列中央)

動は、一橋大学大学院に入学した



ときに、研究指導教員を近経・ミクロ経済理論の大家であった鈴木興太郎先生（日本学士院会員・一橋大学及び早稲田大学名誉教授）にお願いに上がった事でした。北大学部時代は基本、マル経一辺倒で勉強してきたので、そしてこちらの方では、学部生としては「秀でた存在」として、先生方や大学院生の先輩方から一目置かれる存在でした。その資産を放棄するに等しい選択とも言えた訳ですが、当時の私はその選択の重大さには全く無頓着。ただただ、自分が経済学研究者としてやっていく上で



社会的選択と厚生国際会議(2000年7月、スペイン・アリカンテ)での研究報告

は、これからは近経、とりわけ学部時代は不得手にしていたミクロ経済学を一からきちんと学んで身につけなければならぬ、という思いだけに駆り立てられていました。マル経の研究者たちが批判対象とする近経の理論を正確に理解し、自家薬籠中のモノにして初めて、自分のマル経研究も生きてくる、と。

しかし、鈴木先生のゼミに入ってみて、すぐに「しまった！」と後悔しました(笑)。あまりにも、これまで学部時代に勉強してきた事と別世界だったからです。『資本論』読解を中心とするこれまでは、経済学の中でもっとも人文色、哲学・思想色の強い領域の勉強をしていました。他方、鈴木先生は近経の中でも、最も体系的な数理経済学の分野に属する厚生経済学・社会的選択理論を専門とされ、また、大学院生への要求水準の高さ、指導の厳しさで非常に有名な方でした。その他、大学院経済学研究科の同期達も、私以外は皆、学部時代から近経の分野での研究者になる事を目

指してしっかりとトレーニングを受けてきた人たちで、とりわけ一橋内部出身者たちの数学的素養力や英会話力など、驚くばかりでした。北大学部生時代の自負心は打ち砕かれ、地獄に突き落とされた気分でした。

そんな訳で、入って最初の1年間は、大学院レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の講義やゼミ、研究会等での議論が全く理解できず、劣等生中の劣等生でした。ゼミでもまともな研究報告が出来ず、鈴木先生には叱られっぱなし。他方、当時の世はバブル経済の華盛りで、社会人になった高校や大学時代の友人たちから、たまに会って聞かされる華やかな話には自分には全くの別世界。あまりにも辛くて、さすがにもうダメだ、実家に帰ろう、と思った事も何度かあります。今言う「二ト」になる一歩手前でした(笑)。

それでも、鈴木先生の、「君のバックグラウンドを生かした研究テーマを選びなさい」というご指示に従い、自分が修士論文として選ぶべき研究テーマを探しているうちに見つけたのが「Rouner (現在、イェール大学教授) が80年に発表した数理的マルクス経済学の古典的論文「アッ、これだ！」と思えました。その論文を解読できるようにするには、

数理経済学で使う高度な数学の素養が必要でしたが、初めて自分の中で、「この論文を読めるようになったらいい」という、その種の数学の勉強をする強い動機が湧いてきたのです。

その後の私の研究人生は、Rouner 教授の研究論文を追いかける事から始まりました。Rouner 教授は数理的マルクス経済学の最も代表的な研究者であると同時に、厚生経済学・社会的選択理論の分野でも独自の貢献をしてきた研究者でもあり、いわば「近経とマル経の両刀使い」を最先端の研究水準で実現させた、私にとって最もお手本とすべき経済学者でした。大学院を卒業後の若手研究者時代に、米国の大学にフルブライト訪問研究員として留学する機会を戴いた時も、イェール大学の Rouner 教授の下で研究生活を送りました。

さて、大学院修士課程時代の私のその後の生活ですが、修士2年目になって修士論文の為の研究報告が本格的に始まりました。2年目の4月に久しぶりに鈴木先生の前で報告をしたのですが、その後で先生に「君はまだアナリテイカルな経済学の論文を読みこなせていない」と、相変わらず、厳しく言われてしまいました。しかし私自身は手応えを感じ始めていた時



期でした。その後、Rouner 教授の論文を中心に1つ1つ時間をかけて精読し、ノートを取る日々を続け、そして鈴木先生の前でも概ね一か月に1度の頻度で研究報告を続けるうちに、どのように報告すれば先生に叱られずに済むかが、段々と分ってきたのでした。そうして迎えた7月の夏休み直前の最後のゼミで報告したとき、先生に初めて「ようやく君もアナリテイカルな経済学の論文を読みこなせるようになったね」とお褒めの言葉を戴きました。「この難解な論文をよく読みこなした。随分と成長したね」とも。

この時が、私の研究者生活の最初のターニング・ポイントでした。劣等感の塊だった私はそれ以降、自信を持って、数理経済学の研究の道を進む事が出来るようになりまし。先生と私の関係性も変わりました。この時を境に、鈴木先生は私の事を「君がどういう研究者になっていくか、注目している」と、期待を以て見てくれるようになりました。その後、一橋大学経済研究所に勤めるようになるのも、先生の強い「引き」のお陰でした。

その後の研究者人生でも、私は多くの失敗や挫折の経験を味わってきましたし、精神的・身体的にも厳しい思いをする事も少なから

ずありました。しかし、大学院入学当初のあの厳しい状態に勝るものはありません。それをこのように乗り切ってきたという経験が、その後の私の人生にとって、重要な土台となったと思います。何があっても、「まあ、あの困難を克服してきたのだから・・・」という気持ちで、自信を持って楽観的にいられるところがあります。

### 4 40代後半に米国へのジャンプ

その楽観主義が究極に走ったのが、40代後半になっての、UMass Amherst への移籍でしょう。そもそも私は、2013年10月から2014年9月の1年間、一橋大でのサバティカル休暇の機会を生かして、UMass Amherst に客員研究員として訪問滞在しました。その滞在期間が終わる頃、「経済理論を専門とするテニユア・トラック准教授もしくは助教の公募を始める。君も良かったら応募を考えてくれないか？」という話を伺いました。

UMass Amherst 経済学部の伝統的な比較優位分野であった数理的マルクス経済学は当時、空きポストになっており、しかしながら、大学院生を中心に潜在的な需要がある、という話も聞いていました。

当時の私は、その研究分野では Rouner 教授からも「現役世代で最も重要な研究成果を出している研究者の1人」と評価されていたが、米国の大学での教員経歴もなく、英米系大学の Ph.D. 取得者でもない自分も候補者になり得るとは思えませんでした。他方で、以前から、自分のキャリアとして1度は2〜3年くらい、海外の大学で教える経験を持ちたいという希望は密かに持っていましたし、1年間の客員研究員生活を送りながら、私はこの大学経済学部のフランクで和気あいあいとした雰囲気、居心地の良さを感じていました。また、滞在中に2回のセミナー報告と、半年間に跨る数理的マルクス経済学の入門的講義を大学院生相手にボランティアで行う中で、彼らの中に私の研究分野を学びたいという熱気が確かにある事を実感しておりました。この点は大きな魅力に思われました。

2008年のリーマンショックを契機に顕在化してきた、資本主義世界経済システムの急速な腐朽化と人類社会の持続可能な発展さえも危機的になってきた情勢の下、その頃から私は、自分が少なくとも為せる貢献ないしは社会的責務とは何かを真剣に考えるようになっていました。私の導いた解とは、「マルクスのな問題意識と



マサチューセッツ大学 アマースト校

パスペクティブを持ちながら現代的な経済学の手法を用いて経済分析を行う研究者層を世代的に再生産し、その知的遺産を継承・発展させる芽を、現在の世界の経済学界の主要な潮流の中に残しておく」という事でした。それが、近い将来の人類社会に訪れるであろう資本制システムの断末魔的危機を乗り越え、ポスト資本制社会への発展の可能性を展望する上で、我々の世代が行える最低限の責務だと、今も考えています。

そうした思いを抱きながら、私は新たな活動の場を米国に移すことになりました。



# エルム談話室

活動報告

平成30年8月から平成31年1月までのエルム談話室の講演内容です。

エルム談話室は毎月第一金曜日午後2時からサピアタワー10階の北大東京オフィスで行われます。同窓会のメールマガジンでもお知らせしていますので、気軽にお越しください。(参加費500円)

清水慧(S43工・衛生)

## 『第824回』

演題：「モダンブリッジ(新たな橋の時代)」

日時：平成30年8月3日(金)

講演者：前田直寛(工学部土木工学科昭和43年卒)

略歴：昭和43年4月日本鋼管(株)入社、平成10年7月駒井鉄工(株)入社、平成14年(有)アバンテ・テクノロジ設立、平成25年7月北日本機械(株)入社、平成30年同社退職。

### 講演内容：

吊橋では世界一の明石海峡大橋が、今年、開通20周年です。本日の講演ではこの20年間の世界の橋の状況を説明します。私が大学で学んだ「橋梁工学」の常識を覆す



前田直寛氏

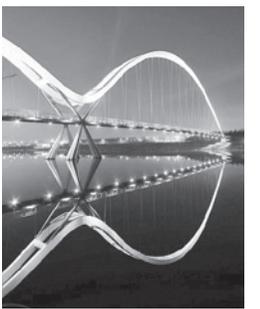
ような美しい橋、変わった橋等を写真と動画でご紹介します。

＊モダンブリッジ  
モダンブリッジの先覚者として、4人の

建築家―サンティアゴ・カラトラバ、ウイルクソン・エア、ローラン・ネイ、ノーマン・フォスターが知られています。



フードポート橋 (サンティアゴ・カラトラバ)



インフィニティ橋 (イングランド)

### ＊新しい歩道橋

新しい試みが次々と行われ一番ホットな分野です。南オセアニア「ピース橋」



＊新しい可動橋  
ユニークな可動橋が数多く建設されています。



アイランドのサムエル・ベケット橋

＊動物のための橋  
橋は人が渡るものと思っていま  
せんか？動物が渡るための橋もあり  
ます。



オランダの例



クリスマス島のカニ用の橋

### ＊モダンブリッジの弊害

中国湖南省「ライキーノット橋」  
は、ベビーカーや車椅子のことを考  
えていないとの苦情が、インター  
ネットで発信されています。



### ＊あとがき

世界の橋を見渡せば、斬新なデザ  
インの橋、ユニークな橋、美しい  
橋等色々な橋が沢山あるのがお  
分かり頂けたと思います。この話  
を通じて、橋の奥深さや面白さを  
感じて、橋への興味を持って頂け  
れば幸いです。

## 『第825回』

演題：「尾瀬紀行」

日時：平成30年9月18日～19日

講演者：池田雄二(阪南大学准教授)

### 講演内容：

標高1655mにある長蔵小屋は  
平野家四代に亘って続く山小屋で、  
当代は平野太郎氏(江3工)である。  
初代長蔵氏の名を取って長蔵小屋  
という。100人以上収容可能で、  
風呂もあり、電気は東電による水力  
発電から引いている。

この標高ならば、立派な登山だろ  
う。登山経験がない筆者は、経験者  
との登山がしたくて参加した。リー  
ダーからは雨具、ヘッドライト、飲  
料水、昼食、携帯電話、防寒具、地図、  
秋山登山の服装の指導を頂き、また  
登山経験者の方からはリュックの紐  
の長さを同じにする事、両手は空け  
ておくべき事等を  
教わった。参加す  
るのは勇気が要っ  
たが、全員が登山  
家ではなかったよ  
うで、参加しやす  
かった。

登山中は晴天  
だった。一日目は  
バススタ新宿からバ  
スで標高1200  
m程度の大清水ま  
で行き、そこから



後列左から2番目が池田雄二氏

翌日、平野家  
代々の墓参りを  
し、尾瀬沼散策組  
と別コースで下山  
する組に別れた。  
尾瀬沼周辺の木道  
は全体で約65kmあ  
る。沼尻休憩所の  
方の話では、木道  
の耐用年数は約7  
年、管理費は1m  
12万円だそうだ。  
その尾瀬沼の南側

長蔵小屋を目指した。適宜休憩を  
取り、今回の行程では最高標高と  
なる三平峠を経て、尾瀬沼を眺めつ  
つ、全員が長蔵小屋に着いた。

夕飯後は、薪ストーブで暖を取り  
つつ、平野氏を囲んで同窓生との談  
話を楽しんだ。平野家四代の歴史  
についても多くを語って頂いた。な  
お後藤允『尾瀬―山小屋三代の記』  
という本がある。また平野氏が『フ  
ロンティア』53号で言及した長蔵氏  
による尾瀬沼での養殖事業(23頁)  
について色々聞いた。前掲書の内容  
に加えて、事業に出資した横田代議  
士は担保を取らなかつたそうだ。多  
少博打的事業だつたらしい。また今  
でも尾瀬沼に漁業権があるという。

翌日は忘れない内に売店で土産  
を買った。オーナーお勧めの落雁、  
「尾瀬の花」は荷物を増やせない登  
山者には大変助かる品だ。

＊新しい水路橋  
日本の水路橋は水を通すのが目  
的ですが、ヨーロッパでは船を通  
す水路橋が数多く建設されていま  
す。ベルギー「サルトル橋」



### ＊おもしろい橋

ベトナムの「ドラゴン橋」はデー  
マパークです。夜になると、ドラ  
ゴンが火を噴くイベントが行われ  
ています。



山梨県の「あやとり橋」は遊び  
心が一杯。



の所有権者は東電、その他は群馬県  
が管理者だそうだ。

復路、再び来た三平峠で長蔵  
小屋が持たせてくれた山小屋弁当  
で腹を満たして大清水へと下山し  
た。バスの時刻まで余裕をもって到  
着した。平均年齢は高めだが、誰も  
大きな怪我はせず、無事下山した。

## 『第826回』

演題：「福沢諭吉と科学学リテラ  
シー」

日時：平成30年10月5日(金)

講演者：福士顕士(理学部化学第  
2科昭和45年卒)

略歴：昭和45年3月理学部卒、52  
年6月大学院理学研究科博士課程  
修了、昭和53年1月～62年3月北  
大理学部助手・講師、62年4月文  
部省初等中等教育局教科書調査  
官、平成20年4月川村学園女子大  
学教授。

### 講演内容：

福沢諭吉というと、文人系の  
人物と思われていますが、過日調  
べてみると科学に対しても見識を  
持った人物であることを知りまし  
た。今日はそのお話をします。

話題としましては、現在の教育  
の流れと明治時代の理科教育の始  
まり、特に福沢諭吉の理科教育に  
ついて、諭吉の著書で日本初の科  
学入門書である訓蒙窮理図解につ  
いてもお話ししたいと思います。

・現在の教育の流れ  
 各国共通の教育課題として、教育を通してどのような人材を育てたいかということがあります。36か国が参加している経済協力開発機構（OECD）では、教育すべきキーコンピテンシー（主要能力）として以下の3つを掲げています。①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力、②多様な集団における人間関係形成能力、③自立的（自律的）に行動する能力。



ます。凸レンズを使った太陽光の集光、熱伝導、色による熱吸収の違い、蒸留器、打ち水で涼しくなる理由、地軸の傾きにより季節が生ずることなどが書かれています。学問のススメと同様に、本書でも国民の教養の一端としての、科学的知識の必要性を説いています。

『第827回』

演題：「新渡戸先生と私の出会い（人と人との繋がり）」  
 日時：平成30年11月2日（金）  
 講演者：細井眞澄（工学部土木工学科昭和49年卒）  
 略歴：昭和49年4月～56年3月、連合設計社市谷建築事務所勤務、昭和58年5月（株）眞澄建築設計社開設、現在に至る。

身で、一浪したため激化した学生運動に遭遇し、一年留年して建築科を目指しましたが、土木科に廻されました。北大は大変居心地がよく、土木科に在籍しながら建築科の講義も聴講できましたので二つの学科を勉強する事が出来ました。卒業後は、吉田柱二等の率いる連合設計社市谷建築事務所にて7年間お世話になりました。吉田柱二等は木造建築の第一人者で、街並み仕掛人として活躍しました。この事務所で厳しく鍛えられ独立して30数年が経ちました。「現代日本の建築」という本に安藤忠雄、黒川紀章、隈研吾等の著名な建築家164名の中に私の名が出ています。以下に出会いの中で生まれた私の作品を紹介します。

- ① 飲み屋さんでの出会い  
8階建てビル等を依頼される。
- ② 昔の現場所長さんからの紹介
- ③ 東京黒百合会先輩から



細井眞澄氏



ポケットスクエア

この会は有島武郎が、創設した北大美術部黒百合会が原点。  
 中野・ザ・ポケット等の四劇場の仕事（ポケット・スクエア）等多くの仕事を頂きました。

『第828回』

演題：「今日からビールアドバイザ」  
 日時：平成30年12月7日（金）  
 講演者：菅埜 誠（経済学部昭和52年卒）

新渡戸精神の「誠実と思いやりの心」を医療で実践し、新たな気持ちで立て直したいとの事でこの病院の建築顧問を拝命。まさにこの病院には新渡戸稲造の精神が生きていていると感しています。

・福沢諭吉の科学リテラシーの意義

江戸時代の終わり頃、欧米諸国を訪れた日本人は日本の文化的・技術的遅れに危機感を高めましたが、福沢諭吉もその一人でした。諭吉は啓蒙思想家として知られていますが、自然科学にも興味を持ち、著書の訓蒙窮理図解は、諭吉のオリジナルではなくイギリスやアメリカの書物を読んで書いています。



菅埜 誠氏

ペリーが来航した1853年、蘭方医・川本幸民が蘭書を見て私邸で試験したのが日本のビールの起源とされる。1872年（明治5）に大阪で渋谷庄三郎が日本人で初めてビールの醸造・販売を開始、翌6年には甲府で野口正明が、同9年（札幌農学校開設の年）に札幌で北海道開拓使麦酒醸造所が創設され、中川清兵衛を中心に醸造を開始、同10年東京に出荷。

ビールは、酒税法により、麦芽、ホップ、副原料（米、コーン等）、水を原料として発酵させたものと定義されており、副原料使用の場合は麦芽の10分の5を超えないと定められていたが、平成30年の改定により副原料の比率を麦芽と同量までとし、果実、ハーブ、味噌、牡蠣などの使用も認められている。

・ビールの種類  
 酵母による分類として発酵後酵母が上面に浮く上面発酵と下部に沈殿する下面発酵、及び自然発酵に区分される。日本は下面発酵が多い。麦芽の種類や処理によりビールの色や香りに変化が生まれる。

ビールは、シュメール文明時代に飲まれていたことが、彼らの粘土板に残されている。ビールの歴史は文献に開きがあり8000年から4000年とされているが、エジプト、アッシリア、バビロニア等の古い文明遺跡から製造、飲用が明らかになっている。11世紀、ホップの使用で品質が飛躍的に向上することがわかりビールが次第に広まった。1516年にドイツで「ビール純粋令」が出され、大麦、ホップ、水の3原料以外の使用は禁止された。

世界のビールとしては、ピルスナー（下面発酵）、エール（上面発酵）、トラピスト（上面発酵）、ラニック（自然発酵）などがある。

『第829回』

演題：「北海道新幹線」  
 日時：平成31年1月11日（金）  
 講演者：斎藤浩司（工学部土木工学科昭和52年卒）  
 略歴：昭和54年4月日本国有鉄道入社、昭和63年4月日本鉄道建設



斎藤浩司氏

札幌駅は現1、2番線ホーム位置にする計画から東側に200～300m離す案に変更された。

公団入社、平成22年4月鉄道・運輸機構鉄道建設本部北陸新幹線第二建設局長、24年同機構鉄道建設本部新幹線部長、26年同機構副理事長・鉄道建設本部長、29年3月退任、29年8月、（株）大林組入社。

建設着工には次の5条件を満たす必要がある。  
 1. 安定的な財源見通し  
 2. 収支採算性  
 3. 投資効果（B/CV1）  
 4. JRの同意  
 5. 並行在来線の経営分離についての沿線自治体の同意

・整備新幹線  
 新幹線は、全国新幹線鉄道整備法により、「主たる区間を列車が時速200km以上の高速で走行できる幹線鉄道」と定義され、整備新幹線とは、北海道新幹線（青森→札幌）、東北新幹線（盛岡→青森）、北陸新幹線（東京→大阪）、九州新幹線（福岡→鹿児島および福岡→長崎）である。整備新幹線は、現在929.4kmが営業中、402.7kmが建設中である。新幹線は、軌間（レールの内側の幅）が1435ミリ（標準軌）で在来線の1067ミリ（狭軌）より広い。

北海道新幹線の整備効果として、青函トンネルなどの共用区間を時速140kmで走行したとして、東京まで7時間44分が5時間1分、函館まで3時間30分が1時間13分に短縮される。北陸新幹線の開業では、長野・金沢間の開業時には200%近い利用客増があった。

・新幹線の建設制度

整備新幹線は、鉄道・運輸機構が建設しJR各社に貸与する方式（上下分離方式）となっている。建設資金として公共事業関係費、地方負担、貸付料収入に加え財政投融資が活用されている。



# 北海道大学柔道部OB会

# 歴史と伝統の高専柔道

私は昭和48年北海道大学文系に入学すると迷わず柔道部に入部した。大半の新入部員は柔道場を覗いて何となく面白そうであるから、あるいは熱心な勧誘(甘い言葉)に誘われて入部するのが一般的であった。しかし私の場合は出身高校(札幌北高校)

の柔道部監督が北大柔道部の監督も兼任していたため、高校時代から北大生と共に稽古を行っていた。そのため躊躇なく入部し、寝技中心の柔道にも違和感なく溶け込むことが出来た。では最初にこの寝技中心の柔道部の歴史から紹介したい。



北大柔道部OB  
**本田 信裕**  
(S52 法学部卒)

第27回大会(昭和15年)をもって戦争の影響で中止となった。

## ◆戦後の柔道部

敗戦に伴いマッカーサー指令によつて学校における柔剣道は禁止となり、柔道部も解散を余儀なくされた。しかし昭和25年10月に柔道が解禁され、翌26年に柔道部が復活した。

昭和27年に高専大会を継承する第1回七帝戦が仙台で開催された。以後現在に至るまで途切れることなく毎年開催されている。北大の初優勝は第13回大会(昭和39年)であり、九大との決勝戦では本戦の15人で決着が付かず、更に代表戦を7回行つても決着が付か

## ◆高専柔道について

高専柔道は明治31年に第一高等学校と第二高等学校の対抗戦に端を発する。大正3年に京都帝大主催で第1回高専大会が開催された。高専柔道は寝技中心であるが、講道館ルール(現在の国際大会、国内大会は同ルールの延長線にある国際試合審判規定で実施)との主な相違は次の通りである。

高専ルールは国際ルールでは認めない立ち技から直接の寝技への引き込みを認めている。また寝技で膠着状態となつても高専ルールでは「待て」がかからない。国際ルールでは優勢勝ちがあるが、高専ルールでは一本を取らない限り勝ちとはならない。

また団体戦の出場人数は15名(一般的に大学では7人制)であることも挙げられる。

このため高専柔道では寝技の技術に磨きがかけられ、例えば現在も多用される三角締めは高専柔道において開発されたものである。また技有では勝ちにならない事、寝技は立ち技に比較して引き分け

## ◆戦前の歴史

部創立70周年記念誌によると、札幌農学校時代から愛好者による稽古が行われていたが、名実ともに柔道部が発足したのは常設道場が出来た明治41年としている(平成30年7月に札幌で開催された七帝戦の時に合わせて、創部110周年記念式典を開催した)。以後、道内で切磋琢磨して実力をつけた北大予科は、大正8年の第8回全国高等・専門学校柔道大会(以下「高専大会」という。高専柔道に

ついては3章参照)に初出場した。北大予科参戦当時は、六高や松山高校の全盛時代であり、これらの高校に常に涙を吞まされていたが、ついに第21回大会(昭和9年)において、決勝で松山高校と対戦し当方の大将が先方の大将を上四方固めで破り、悲願の全国制覇を果たした。この時の優勝メンバーの一員が、故堂垣内元北海道知事である。

その後、北大予科は優勝候補であったものの拓大予科や関西学院高商などの私立が力をつけ、二度目の全国優勝はならず高専大会は人目まで)全て引分であり、大将戦で敗れたが、この試合は七帝戦の典型と言えよう。私見であるが、立ち技の習得には多分に先天的な才能が必要であるが、寝技は才能よりも稽古量に左右される要素が多く、七帝(高専)戦ルールは大学から柔道を始める選手も多い七帝大学には、相応しいと考えている。

## ◆東京OB会の活動について

柔道部全体のOB会(本部は札幌)は「旧交会」の名称であり、昭和8年に発足し「会員間の

親睦と柔道部の支援」を目的としている。

現在は石橋弘次氏(昭和43年卒)が会長に就任している。東京OB会はその支部の位置づけであり、昭和20年代から最近の卒業生まで、百数十人の会員が名簿に名を連ねている。菅原謙二氏(昭和51年卒)が会長に就任しており、本部と連携しつつ年に一度の総会を開催し、七帝戦の応援・支援、七帝大学対抗のゴルフ・囲碁への参加、北大寮歌祭への参加(毎回、柔道着着用で「東征歌」を披露)などの諸活動を活発に行っている。



北大寮歌祭(H30.9.24開催)で柔道着にて東征歌を歌う

## ◆おわりに

私は毎年、各大学で開催される七帝戦の応援に駆け付けているが、最近非常に懸念していることがある。上述したように七帝戦は15人戦で行われるが、毎回、15人の選手が揃わない大学が1~2校見られることである。幸い北大はそのような状況に陥っていない

が、15人を揃えるのに汲々としているのが実状である。この原因は色々推定されるが、柔道人口の減少が一番の原因と思われる。例えば札幌では東西南北の進学校があり、私の頃は各々の高校で柔道部が活動していたが、現在はほぼ皆無の状況である。

これに対する特効薬は無いが、地道に柔道の魅力を広めていくしかないであろう。またフロンティア読者諸氏の出身高校の柔道部員・生徒が七帝大学に入学した場合は、是非、伝統のある柔道部へ入部するように薦めて頂くことをお願いしたい。



柔道部の寝技中心の稽古



柔道部伝統の必殺の上四方固め

状況に陥っていない



平成13年から17年にかけて、大学当局の援助も受けながら砂入り人工芝コート3面を整備した結果、テニスのプレー環境が劇的に改善しました。また、技術コーチ、フィジカルコーチを新たに導入するなど監督、部長の尽力もあり、多少の波はあるものの硬式庭球部の戦績も順調に伸びてきました。個人成績で出場するインカレ選手をコンスタントに輩出するほか、団体戦で大学日本一を決める学生王座戦の北海道予選では男女とも優勝することが多く、全国各

## ② 硬式庭球部の近年の戦いぶり

平成14年(2002年)6月には創部100周年記念祝賀会(コート開き)を開催し、当時の中村睦男北大総長と榎庭会会長など4名で記念試合を行いました。さらに、平成16年元庭球部長中嶋博氏(現在農学部名誉教授)の退官記念事業およびDコート整備事業として、寄附金500万円余りを集め、この時は大学当局からもコート整備費用として多くの援助を受け、残り1面の砂入り人工芝コートが平成17年に完成しました。

有意義に利用されてきたテニスコートではありますが、人工芝コートでは一般的な使用年限である10年が過ぎており、ベースライン周辺を中心に人工芝の磨耗がかなり進み、一部に裂け目が生じるという事態となりました。そこで、使用頻度の高いメイン2面のコートだけでも砂入り人工芝で再整備することを最大目標とし、榎庭会がその方策を探ることが始まりました。実績のある3社の見積もり比較を行った結果、コート2面の砂入り人工芝での再整備費用は税込み800〜900万円となりました。

## ③ シーズン終了後のテニスコート状況と再整備のスタート

また、7大学戦ではかつては雪国のハンディで下位に甘んじることも多かったのですが、近年は互角以上の戦いぶりです。平成28年は男女とも東大と優勝を争い、女子は圧勝で優勝、男子は互いに4勝で迎えた最終戦もファイナルセット5-5までもつれ込む戦いで惜しくも準優勝となるなど、頼もしい戦いぶりを見せています。

## ④ 大学当局との折衝

コート改修に関する大学当局との折衝は、平成17年の初回のコート整備以降、断続的に続いてきました。榎庭会では、初回整備(オムニ化)は自らかかなり頑張ったのだから、次回以降の再整備は大学当局にお願ひすべきとの意見は強くありました。安川本人が来札する年2回ほどの機会には、柳村現庭球部長(大学院農学研究科教授)を通じて北大総長に面談を求め、同時に担当の学生支援課を訪問して、コート再整備の大学支援を要請してきました。

また、前庭球部長の上田一郎農学部教授が北大副学長となつていことから、様々な情報収集や働きかけを行ってきました。ただ、大学予算の削減は、我々が折衝を重ねている間も年を追って厳しくなっていました。折衝時に教員の人員削減や大学使用電気代の削減にまで話題が及ぶようになり、緊急整備を要する榎庭会として再度自力整備やむなしという

## ⑥ テニスコート改修その後の展開(平成29年8月以降)と工事の完成

平成29年8月寄附金が目標の800万円をほぼ達成し、工事発

## ⑤ テニスコート改修の体制・資金集め

事業は安川を代表とする榎庭会の「北海道大学硬式庭球部テニスコート改修及び庭球部支援事業」とし、資金は榎庭会独自の寄附募集で賄い、改修工事を自ら行い北大に物納することとしました。特に次世代を担う若手卒業者に協力を呼びかけ次回以降のコート補修に備えました。

# 北大硬式庭球部 テニスコート改修事業報告

## オムニから夢のハードへ 奇跡のコート改修



テニス部OB・OG・現役部員 集合写真

## ① 過去のテニスコート改修の経緯

北海道大学硬式庭球部は明治35年(1902年)創部、今年(平成31年)で創部118年を迎える歴史ある運動部です。東京大学、他の国立7大学や慶応大学、早稲田大学と並ぶ黎明期の学生テニスを支える存在でした。テニスコートは以前現在のクラーク会館の場所にあったと聞きますが、昭和35年(1960年)クラーク会館建設を契機に本部図書館裏に移り現在に至っています。テニスコートの材質は一貫してクレイ(粘土)で、毎年シーズン

前の早春に1、2年生部員がコートを掘り起こし、にがりを混ぜてローラーで固めるという作業を繰り返してきました。しかし、数十年を経てクレイが徐々に劣化し、イレギュラーバウンドが多くなってきたため、平成13年に創部100周年記念事業として砂入り人工芝(オムニ)コートに改修することを榎庭会で決議しました。工事費用に関して大学当局と幾度も折衝しましたが、本体工事までは大学側が予算化できないとのことで、榎庭会がOB・OG中心に寄附を募り、約1200万円(個人345名、企業・団体17名)を集めて、使用コート3面のうち2面の砂入り人工芝コートが平成14

北海道大学榎庭会  
(北海道大学硬式庭球部OB・OG会)  
前会長  
**安川淳一**  
(S42 理学部 高分子学科卒)

元テニスコート改修  
特任幹事  
**桑田雄平**  
(S49 工学部 建築工学科卒)

北海道大学硬式庭球部OB・OG会である北海道大学榎庭会は現役部員のテニス環境の充実と技術の向上を祈念して、自ら資金を募り、北大図書館裏にある硬式庭球部使用テニスコート3面を全米オープンコートに近い仕様で改修し、北海道大学に寄贈しました。以下にその顛末を記します。



注に取り掛かりました。改修計画では砂入り人工芝コート2面の改修を目指してきました。が、施工実績のある会社とコンタクトを取ったことから施工費用850万円程度で3面の改修が可能であることが分かりました。さらに様々な交渉を経て、当初は手が届かないと考えていたハードコートでの整備が、新工法による試験施工という形であれば、工事可能ということになりました。学生の全国大会の公式戦が人工芝コートからハードコートに移行する中、北大コートの将来像を学生や監督、榎庭会役員・会員が一堂に会して議論し、ハードコート3面整備のコンセンサスが得られました。

今回の新工法は従来の人工芝コートを固化し、その上にハードコートを施工するものです。試験施工ということで大幅な値引きを実現する一方、コート寄贈を受ける北大側の了解や性能保証等の問題に関しても大学当局と協議しました。概ねこれらの問題が解決して、8月施工業者と施工契約を締結。工事は10月からスタートして、11月中の完了を目指しました。しかし、天候不順や落葉などの悪条件に阻まれ、翌年に持ち越し、2018年4月中旬より再工事、

5月上旬ようやく完成しました。その間は北大学生支援課と施設企画課には学内調整や、コート周辺の樹木伐採など多くの支援を受けました。

### 7 テニスコート改修完成 記念セレモニー

平成30年5月12日、北大当局関係者と榎庭会役員、現役部員、施工業者が集い「北海道大学硬式テニス部テニスコート改修完成記念セレモニー（贈呈式・記念試合・祝賀会）」及び若手OB・OG主催の親善テニス大会を行いました。贈呈式では安川榎庭会会長から名和北海道大学総長（総長海外出張のため代理で北大学務部学生支援課・富樫課長）へ目録を贈呈



目録贈呈

し、北海道大学長谷川理事からのお礼の言葉が代読されました。贈呈者は銘盤に氏名を刻みコートサイドに掲げてあります。

### 8 おわりに

榎庭会のこれまでのテニスコート改修は既述のように、大学当局の協力は大きいに得ましたが、基本は自力整備でした。このことは榎庭会の結束を高め、現役学生にも自覚を促すことにはなりましたが、今後も長期にわたりこのような状況を維持できるとは限りません。

他の運動部も同様の状況かと思えます。今後は、大学当局と一緒に運動部施設の更新方策を



富樫課長挨拶

模索する必要があると考えます。最後になりましたが、快く低価格で施工を引き受けて下さり、素晴らしいハードコートを完成して下さった(株)東旺に心からお礼申し上げます。



記念試合



寄附者銘盤 除幕式

## 書評コーナー



### 広報委員会発・北水ブックスシリーズのご紹介 『海をまるごとサイエンス』 『出動！イルカ・クジラ110番』

みなさん、もう「北水ブックス」のことはご存知ですか？水産学部の先生が中心になって、水産科学の魅力語るシリーズです。

第1弾は『海をまるごとサイエンス』で、昨年8月に発行されました。著者名はなんと「海に魅せられた北大の研究者たち」。11人の共著者が、最新の研究や活動を、ライブ感、わくわく感たっぷりに紹介。クジラやイルカ、サケ、チョウザメ、ヤドカリから微生物まで、さらに海の渦、北極海、深海底、メタゲノムの話など、興味深い話題満載です。

第2弾は11月発行の松石隆著『出動！イルカ・クジラ110番』海岸線3066kmから視えた奇跡の科学』。海岸に打ち上げられたクジラがいると聞けば現地に駆けつけて貴重な研究試料を採取する、網にかかったイルカがいれば一時保護して海へ帰す。そんな活動の中心となって奮闘している著者が、学生とともに北海道を駆け巡り、積み重ねてきた調査の実績、驚きのエピソード、そこから生まれた研究の数々



A5判、128ページ、オールカラー。お問い合わせは海文堂出版(03・3815・3292)まで。(1,800円+税)

が知的好奇心をくすぐります。特徴は、カラー写真や図がたっぷり、しかも大きく掲載されていること。眺めているだけで楽しくなります。高校生にも読んでほしいというだけあって、文章もわかりやすく、専門知識は不要です。

このシリーズ、出版社から安井肇研究院長(当時)に企画が持ち込まれ、何度も打ち合わせを重ねて実現したそうです。担当編集者は、このシリーズのために函館オフィスを開設したとか。ウラ表紙の真ん中には北水の旗が印刷されているという力を入れよう！今後2〜3か月に1冊のペースで発行される予定です。

東京基準より北海道基準、北の夢。

# ぷらう

代表取締役社長 石川 裕一

株式会社 ぷらう

〒060-0063

北海道札幌市中央区南三条西4丁目12-1 アルシュビル8階

TEL: 011-219-2223 FAX: 011-219-2885



# 北海道大学 大学文書館のご案内



北海道大学  
大学文書館・特定専門職  
山本美穂子

## 1. 施設の概要

「大学文書館」は、北海道大学の歴史に関する歴史的な公文書及び各種資料を収集・整理・保存し、調査研究を行って、展示・公開等の利用に供している機関です。

「125年史編集室」(1998(2004年)の後を継ぎ、準備期間を経て、2005年5月に設置されました。

施設は、2016年4月、附属図書館4階の一室より、クラーク会館西隣の建物(旧留学生センター)に移転し、建物一棟を使って全業務を行っています。

建物内には、「閲覧室」、「沿革展示室」、「展示ホール」等があり、開館日時(月)金曜日9時30分～16時30分)には、どなたでもご利用いただけます。

## 2. 3つの組織と 所蔵資料

大学文書館では、現在、次の3室体制で業務にあたっています。

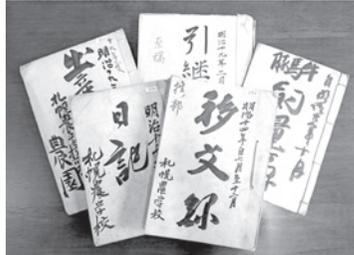
### (1) 公文書室

「公文書室」は、公文書管理法関係法令に基づく「国立公文書館等」の指定を受け、大学公文書の管理・保存・公開を行っているセクションです。学内の各部署が作成・收受した大学公文書を引き継いで整理するとともに、歴史的に重要な公文書を選別して、「特定歴史公文書等」として保存・公開する役割を担っています。

現在、「札幌農学校簿書」(19091冊、1871～1907年)、東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学期の大学本部が作成した文書群「帝大簿書」(554冊、1907～1949年)等を公開しています。

(2) 沿革資料室  
「沿革資料室」は、公文書管理法関係法令に基づく「歴史資料等保有施設」の指定を受け、大学公文

書以外の大学の歴史に関する各種資料(写真、映像、受講・講義・研究ノート、手稿、日記・日誌、手帳、証書類、表札・門標・電停・墨蹟、絵画、行事記念品等)を収集・整理・保存・公開しているセクションです。



札幌農学校簿書

例えば、①には、学内組織の概要・広報誌、文化・体育団体(童話研究会・鉄道研究会・剣道部・スケート部等)の文集・部報、寮歌集、大学新聞、同窓会誌等があります。

②・③には、元総長(佐藤昌介、高岡熊雄、堀内壽郎、有江幹男、丹保憲仁)、元教員(農)大島正健・新渡戸稲造・宮部金吾・半澤洵・

星野勇三・高松正信・田中義隆、【理】堀健夫、【工】池田芳郎・鳥山四男、【医】寺沢浩一、【文】大黒静治、【教】竹田正直)、卒業生(伊藤一隆・平塚直治・藤井純子・日下大器(以上、敬称略)等)の旧蔵資料や、工学部旧鉱山学科の実習報文、恵迪寮・新潟寮・青年寄宿舎・応用菌学講座等の沿革資料があります。

これらの資料の受贈・受入情報は、大学広報誌『北大時報』(毎月未発行)や、『北海道大学大学文書館年報』(毎年度未発行)収録の「業務記録」で紹介しています。両誌はWeb上でもご覧いただけます。

### (3) 150年史編集準備室

北海道大学は、札幌農学校の開校(1876年)を基点として、25周年・50周年・80周年・100周年・125周年を記念し、大学沿革史の編纂を行ってきました。「150年史編集準備室」は、2018年4月、150年史編纂事業(予定)2021年)

2032年)の準備を行うため、開室しました。現在、歴史コラム・活動報告等を掲載した『北海道大学150年史編集ニュース』を年2回発行すると共に、150周年のに向けた広報活動、他大学の年史編纂状況の調査等を行っています。

## 3. 大学文書館の活用法

【活用法①】 思い出しの資料を保存する！

戦前期の資料だけが、歴史的な資料「史料」となるわけではありません。戦後から現在に至るまで、大学在学・在職時代のものが、お手元にございませんか？  
例えば、構内を撮影した写真、



大学文書館外観



展示ホール

教養部のクラス雑誌、大学から受け取った講義時間表・通知類・学生証、構内で配布されていたピラ・冊子、鬼仏帳、北大生協発行の『北大生の生活』など、身近にあったものが「史料」となります。

大学文書館では、受入(出張梱包・運搬)・整理(清掃・分類・目録作成・保存袋収納)・保管(収蔵庫収納)を行っています。「屋根裏から、段ボール1箱出てきたのですが…」と、お気軽にご連絡ください。

【活用法②】 資料を利用(閲覧・複写等)する！  
大学文書館所蔵の資料は、閲覧室で資料原本を手にとって、ご覧いただけます。資料の一部(絵葉書、写真等)については、Web



内村鑑三、新渡戸稲造の郵便資料



廣井勇をめぐる資料見学会

上で小さな画像での簡易公開を始めた。しかし、大学文書館の所蔵資料は膨大な数(約6万点)があり、形態もさまざま、1点ものの資料が多く、図書館所蔵の図書・雑誌のように大多数の人が読むことを目的として作成されたものではありません。

そこで、「1980年代の大学の写真やプログラムはないだろうか?」、「白聖館(旧工学部)の写真や図面はないだろうか?」、「戦前期、台湾に渡った卒業生を調べるには、どのような資料があるのだろうか?」など、時期・場所・建物・出来事・人物等のトピックについて、具体的に、大学文書館のスタッフにご相談ください。

### 【活用法③】 展示を見学する!

現在、閲覧室内の展示コーナー(扁額・掛軸用)では、佐藤昌介の墨蹟、新渡戸稲造の墨蹟・書簡

額、内村鑑三の書簡額を4点陳列しています。沿革展示室では企画展示「女性が切り開いた研学の場」女性の北大入学100年(2019年7月まで)を、展示ホールでは常設展示「北大生の群像」北大150年の主人公たち、「新渡戸稲造と遠友夜学校」を開催しています。希望者・団体には展示ガイドも行っていますので、事務室にお声かけください。

【活用法④】 団体で資料を観る!  
大学文書館では「資料見学会」を会議室(大学文書館1階)等で開催する場合があります。

例えば、大学・地域の行事(ホームカミングデー、カルチャーナイト等)、卒業生のご家族・ご子孫、教養部・講座のクラス会、寮・サークル等の同窓会などの団体で来られる場合、所蔵資料から資料陳列が可能なのは、当日限定の「資料見学会」(ガイド付き)を設営します。これまで、W・S・クラーク、佐藤昌介(札幌農学校第1期生)、新渡戸稲造・廣井勇(第2期生)、森本厚吉・東海林力蔵・有島武郎(第19期生)などを取り上げました。ご希望の場合は、事前に、大学文書館にご相談ください。

# 北海道大学の近況

(2018年 春～秋)

北海道大学総務部広報課

## 「北海道大学入試改革フォーラム2018」を開催

5月21日(月)、学术交流会館において、「北海道大学入試改革フォーラム2018」を開催しました。

今回が第2回となる本フォーラムは、次世代を見据えた入試改革の向かうべき方向性について検討することを目的としています。

「多面的・総合的評価に基づく



松村氏の講演

川嶋氏の講演

名和総長の開会の辞



パネルディスカッションの様子

福原氏の講演

山本氏の講演

「多面的・総合的評価に基づく」というテーマのもと、名和豊春総長からの冒頭挨拶の後、第1部では基調講演として、大阪大学高等教育・入試研究開発センター長川嶋太津夫氏の「入学者選抜におけるアドミッション・オフィサーへの期待と課題」と題する講演に続き、株式会社リアセック代表取締役CEO松村直樹氏からは、「大学生・社会人に求められる汎用的能力とその評価」と題して講演いただきました。

第2部では、京都工芸繊維大学基盤科学系/アドミッションセンター准教授山本以和子氏より「センター試験、教科別学力試験を課さ

## 清水建設株式会社と次世代高性能材料開発に向けた産学共同研究に着手

7月11日(水)、名和豊春総長と清水建設株式会社井上和幸社長は、東京の清水建設株式会社本社で共同記者会見を行い、従来の鉄筋コンクリートに代わ

る新素材「ロジッククス構造材」の開発に向けた組織型産学共同研究に着手したことを発表しました。「ロジッククス構造材」とは、あらゆる現象を論理的に積み上げることにより得られる次世代の新素材を意味し、この新素材により超



名和総長(左)と清水建設株式会社井上和幸社長(右)(税込)



記者会見の様子

ら派遣される研究者とともに、工学研究院において横断的研究組織体制のもとで共同研究を実施します。清水建設株式会社からは、研究者の派遣のほか、研究費3億円を供出することになっています。

大型建造物や過酷な環境条件下の構造物への活用及び建設工事の飛躍的な生産性向上が期待されます。

この共同研究は、2021年3月末までの3年間をコンクリートに生じるひび割れや鉄筋の腐食など、従来の鉄筋コンクリートでは解決することが困難であった課題点を克服する。

第1フェーズの基礎研究期間としています。本学は、コンクリートの内部構造をナノスケールレベルで分析する中性子装置などの最先端設備を用い、清水建設株式会社か

2021年4月以降の第2フェーズは、10年後の実用化を目指す新素材の開発を具体化させる応用研究期間としています。

本記者会見では、名和総長から、「将来の日本に必要な研究であり、建設に関するあらゆる分野が発展する一助となりたい」、井上社長から、「今回の共同研究は大きな可能性を秘めており、オープンイノベーションによる相乗効果により、新たな知が醸成されるものと期待している」との抱負が述べられました。(総務企画部広報課、工学研究院)

## 新感覚コンビニエンスストア「セイコーマート北海道大学店」

### グラントオープン

本学は、株式会社セコマと連携し、7月24日(火)、札幌キャンパスの中央(札幌市北区北11条西7丁目)に、新感覚コンビニ「セイコーマート北海道大学店」を開店しました。

本学と株式会社セコマは、本年4月、食と安全の分野における製品の分析や商品の共同開発の推進等のため、地域創生連携協定を締結しています。本店舗は、デザイン・設計・



テープカットに臨む名和総長(中央左)ら



店舗を内覧する名和総長(左)と丸谷社長(右)



店舗2階のテラスにて

建築を北海道の企業である株式会社土屋ホームが担い、建物の一部に北海道紋別産カラマツを使用しているなど、「北海道産」を前面に打ち出しています。また、店舗内には、地域創生連携協定の成果第一弾である、北海道豊富町産の牛乳を使用し、たんぱく質が多く含まれる健康アイス(本学とセコマグループが共同開発)を販売しています。

名和豊春総長は、同日のオープニングセレモニーで「新店舗が多く

概念にとらわれない新しい発想でデザインされています。店舗前のベンチなどゆとりのある空間を作り、開放的な2階の屋外テラスでは、色彩豊かな本学の四季を感じていただけます。

1階にはインフォメーションコーナーを設け、本学の歴史や最先端の研究成果など、本学の魅力を学外に発信するための広報スペースとして活用します。2階の休憩スペースにはテーブルやイス、キッチンを

の方に愛され、地域社会・地域経済の発展と活性化の足がかりとなつてほしい」と祝辞を述べました。株式会社セコマの丸谷智保社長からは、「教職員や学生の方々はもちろん、道民や観光客の皆様が自由に歩き来できる空間として、末永く愛していただきたい」と意気込みを語っていただきました。

## 【地域創生連携協定について】

北海道大学が有する研究・教育機能及び知識・技術・ノウハウの集積と、セコマグループのサプライチェーンとしての機能を活かし両者が連携することによって、地域社会・地域経済の発展と活性化に資することを目的としています。

## 【セイコーマート 北海道大学店について】

本店舗は、一般的なコンビニの

(総務企画部広報課)

船水尚行名誉教授が「平成30年度北海道社会貢献賞（国際交流・協力功労者）」を受賞

船水尚行名誉教授が、東欧及びアフリカ諸国から受け入れた多数の研究員を指導するとともに、発展途上国に研究員を派遣し、現地の人材育成に努めるなど、発展途上国の水・衛生分野の発展に貢献したことに對して「平成30年度北海道社会貢献賞（国際交流・協力功労者）」を受賞されました。

北海道社会貢献賞は、多年地方自治の進展、社会福祉の増進、保健衛生の向上等に貢献し、その功績が顕著なものに對して、北海道知事が表彰する賞です。船水名誉教授は、このうちのひとつとして、国際交流・親善及び協力の推進に貢献し、その功績が顕著な個人、



表彰状の授与



表彰状を手にする  
船水名誉教授(一番右)

団体、企業へ贈られる「北海道社会貢献賞（国際交流・協力功労者）」を受賞しました。

8月4日（土）に京王プラザホテル札幌で行われた表彰式では、泰弘副知事から表彰状が手渡され、船水名誉教授から「水と衛生の問題はSDGsの中にも重要な課題として取り上げられており、世界が取り組むべき喫緊の課題の一つである。水と衛生の分野について、開発途上国をはじめ、世界の若い世代の育成にこれからも尽力し、北海道を水と衛生分野の世界の先進地とするべく、努力していきたい」との言葉がありました。（国際部国際企画課）

札幌キャンパスを駆け抜ける  
北海道マラソン2018

「北海道マラソン2018」が8月26日（日）に開催され、さわやかな秋の風を受けながら、男女1万5千980人※のランナーが本学札幌キャンパスを駆け抜けました。

ランナーたちはレース終盤の38km付近から本学構内に入り、緑あふれるメインストリートを通り、クレーク像を右手に眺めつつ中央ロインの木陰を通り、札幌農学校時代の正門を移設した南門からゴールの大通公園を目指しラストスパートを駆けに行きました。



男子優勝の岡本直己選手



女子優勝の鈴木亜由子選手



メインストリートを疾走する選手達

2009年大会からコースに加えられた本学キャンパスには大勢の市民が駆けつけ、その温かい声援や激励が気力を振り絞り力走する選手たちを後押ししました。

札幌市と国際会議等(MICE)に関する連携協定を締結

9月4日（火）、本学は札幌市と国際会議等(MICE)の誘致・開催に関する連携協定を締結しました。

MICE(マイス)とは、「Meeting」(企業等の会議)、「Incentive Travel」(企業等の旅行)、「報奨・研修旅行」(Convention) 。

なお、本マラソンの様子は、UHB・北海道文化放送とBSフジで生中継されました。  
※フルマラソンの出場者数  
(総務企画部広報課)

(国際機関・団体及び学会等が行う国際会議)、「Exhibition/Event」(展示会・見本市及びイベント)の頭文字を合わせた言葉であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

札幌市には、本学との連携を深めることで、同市へのMICE誘致を推進したいとの意向があります。また、本学としても札幌市におけるMICE誘致推進をリードする役割を果たすことで、地域創生に寄与するとともに、国際広報に關して同市と相互に連携・協力することにより、本学の国際的なブランド力を強化したいと考え、本協定締結の合意に至りました。

締結式は札幌市役所で行われ、名和豊春総長及び秋元克己市長による協定書への調印と代表者挨拶が行われました。

協定による具体的な取り組みとして、本学で開催された会議等についての定期的な情報共有や、本



協定書を手に握手する  
名和総長(左)と秋元市長(右)

学が誘致・開催する国際会議等に関する相談窓口の設置、国内外で開催される国際会議や国際的行事等における、相互の広報PR活動の協力等が予定されています。

本協定の締結を機に、本学及び札幌市の国際的ブランド力の強化に努めるとともに、地域創生への更なる貢献を目指して参ります。  
(国際部国際連携課)

文化功労者に名誉教授 宇井理生氏

この度、本年度の文化功労者に宇井理生名誉教授が選ばれました。

文化功労者は、日本において、文化の向上発達に關し特に功績が顕著な方が選ばれ、文化勲章に次

ぐ栄誉とされています。同氏は、生命活動に重要な役割を果たしている「Gタンパク質」の機能を解明したほか、新薬の開発研究に大きく貢献されました。  
(総務企画部広報課)

みんなで「つくる」を大切に

北海道日建設計は、日建設計のグループ会社として1956年に誕生しました。これまで、北海道の人と風土に根ざした「生活環境や社会環境づくり」を目的に、建物をつくるだけでなく、多くの人々との交流をもとに、みんなで「つくる」を実践してきました。これからは、環境に配慮した美しい景観の創出をはじめ、人々が「生きる場」としての街づくり・空間づくりに取り組んでいきます。

取締役会長 菅野 彰一 (工・昭53・建)  
代表取締役副社長 久保田 克己 (工・昭59・建)

**NIKKEN**  
EXPERIENCE, INTEGRATED

株式会社 北海道日建設計  
札幌市中央区大通西8-2住友商事・フカミヤ大通ビル  
TEL: 011-241-9530 FAX: 011-261-7673  
URL: http://www.h-nikken.co.jp

2019年(平成31年)  
寒中お見舞い  
申し上げます。

北大東京同窓会  
役員一同・事務局

会長 杉江 和男 (工・45・工学研究・修)  
事務局 廣重 晃以 (法・55)

納谷 峻徳

(工・38・冶金)

JFEホールディングス株式会社

特別顧問  
數土 文夫

(工・39・冶金)

北海道大学校友会エルム

会長  
石山 喬

(工・42・冶金)

岡 隆次郎

(工・42・冶金)

梅原ビルディング株式会社

代表  
梅原 誠一郎

(工・44・冶金・修)

北海道大学東京同窓会

会長  
杉江 和男

(工・45・工学研究・修)

はまなす会

(北大工学部機械工学科東京同窓会)  
顧問  
仲 裕

(工・47・機)

総合建設コンサルタント(国内&海外)  
セントラルコンサルタント株式会社

代表取締役会長  
馬場 直俊

(工・47・土木)

株式会社フジクラ

常任顧問  
成瀬 秀夫

(工・52・電気)

コムシスホールディングス株式会社

相談役  
高島 元

(工・47・電子・修)

日本コムシス株式会社

代表取締役会長  
伊東 則昭

(工・52・電子・修)

JFE環境株式会社

代表取締役社長  
櫻井 雅昭

(工・56・金属)

味の素株式会社

代表取締役専務執行役員  
福士 博司

(工・59・合成・修)

ワイエム・エス株式会社

代表取締役  
島田 久

(工・61・金属)

尾瀬沼畔長蔵小屋  
尾瀬ヶ原第一長蔵小屋

代表取締役  
平野 太郎

(工・H3・衛生)

日本水産株式会社

代表取締役会長  
細見 典男

(水・48・食品)

北海道大学獣医学部同窓会  
関東支部

支部長  
鷺野 弘明

(獣・53・修)

森 和弘

(歯・H1)

新日本相撲甚句会

理事  
師範代  
野呂 忠一

(薬・39)

東日本旅客鉄道株式会社

顧問  
松田 昌士

(法・36・修)

北水同窓会  
東京支部一同

支部長 樋口 達夫 (水・50・食品・修)  
副支部長 細見 典男 (水・48・食品)  
副支部長 吉田 克典 (水・H2・食品)

笹田 琢夫

(法・36)

佐藤 尚夫

(法・44)

東京フラテ会

会長 畠山 昌則 (医・50)

社会医療法人  
財団大和会  
武蔵村山病院

院長 鹿取 正道 (医・H3)

## 北大法学部

東京同窓会 役員一同

会長 奥野 滋 (法・50)  
事務局長 山口 公範 (法・H2)

## 北大経済学部

東京同窓会 役員一同

会長 永松 昌一 (経・57)  
事務局長 菅埜 誠 (経・52)

行政改革推進会議歳出改革WG委員  
公益財団法人交通協力会  
常務理事

石堂 正信

(法・44)

公益社団法人北海道倶楽部  
常務理事、事務局長

DG株式会社  
代表取締役

本間 修

(法・45)

株式会社BlueMeme

常勤監査役

杉山 和彦

(法・45)

株式会社ぷらう

代表取締役

石川 裕一

(法・54)

株式会社町村農場

代表取締役

町村 均

(法・60)

JFEスチール株式会社

常務執行役員

堀江 亮介

(法・61)

株式会社サクセスボード

代表取締役社長

菅野 聡

(法・62)

北海道大学大学院法学研究科

研究科長、法学部長

池田 清治

北海道大学法学部同窓会

会長

佐々木 亮子

(法・47)

北海道大学法学部同窓会

副会長 兼 事務局長

高橋 了

(法・47)

佐々木 豊実

(農・35・林学)

株式会社デイリーテクノ

代表取締役社長、農学博士

富田 守

(農・36・畜産)

## 新入会員

(平成30年7月)、敬称略  
柿谷佐保子(法H22)、横山光紀(工H6)、杉崎順平(函S61)、渡辺明日香(法H18)、戸田守道(工S58)、筒井基嗣(薬H12)、小林祐介(工H29)、西田実弘(経H30)、尾崎由博(獣医H18)、岩堀隆志(農H16)、大泉まどか(法H27)、吉田和記(経H30)、住岡耕平(工H28)、鈴木孝光(経S57)、前田明裕(公共政策・修H28)、小菅千絵(環境・院H21)、逢坂美有紀(経H25)、田山忍(理H14)、瀧本京太郎(法・院H28)、久慈陽太郎(法H26)、五十嵐智嘉子(経S54)、辻井みみ代(文H23)、木島達也(工院・環境H25)、弘田幸(工院・環境循環H26)、石井信行(文S56)、安保正俊(農S58)

## 訃報

平成30年7月以降にご逝去の  
お知らせをいただいた方々。  
敬称略  
松山良三(農S24)、菊池幸雄(理S27)、宮坂正昭(農S27)、小山司朗(農S40)、山本雅道(法S32)

株式会社明治屋

代表取締役社長

松沢 幸一

(農・48・農化修)

公益社団法人国土緑化推進機構

専務理事

梶谷 辰哉

(農・50・林学)

中外製薬株式会社

代表取締役社長

小坂 達朗

(農・51・農化)

月島食品工業株式会社

代表取締役社長

戸田 信之

(農・51・農化)

共栄火災海上保険株式会社

取締役常務執行役員

櫻田 巧

(農・58・農経)

北大スキー部OB会 東京支部 幹事  
北大東京同窓会 理事  
(一社)札幌農学校同窓会 東京支部 理事  
(公社)全日本学生スキー連盟 副会長

高橋 寛

(農・62・農機)

三晃堂三井印店

代表

三井 晃一

(農・H1・農学)

デニカ株式会社

代表取締役社長

八田 和之

(農・H1・農工)

## 総会のご案内

### 東京同窓会 総会

日時：2019年6月8日(金)  
会場：日本倶楽部 TEL.03-3211-2511(代)  
※詳しくはホームページをご覧ください。  
※東京同窓会会員には総会案内を郵送致します。  
同封のハガキにてご返信をよろしくお願い致します。

## 一般社団法人 札幌農学校同窓会

東京支部 役員一同

理事長 梶谷 辰哉 (農・50・林学)  
副理事長 坂倉 雅夫 (農・48・農工)  
副理事長 櫻田 巧 (農・58・農経)

名刺広告は1コマ、5千円で、皆様にご協力をいただいています。

# 理想のイメージを 形へ創り上げる。

商業施設などプロパティマネージメントをはじめインテリアデザイン、企画、設計、施工を手掛ける札幌の企業です。

株式会社コーシンプランニング  
代表取締役 片岡 幸三  
〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条9丁目6番24号  
TEL 011-841-5588 FAX 011-841-5599  
<http://www.koshin-pl.co.jp>

## （株）ブライダルは北海道大学同窓会の 皆様の「結婚」を応援します。

### 40年の実績

（株）ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この会報誌「FRONTIER」を見たとおっしゃってくだされば、校友の皆様は特典付（登録料100%OFF）にてご入会いただけます。

## 北海道大コース

登録料 **100% OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.\*  
エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.\*

\*価格は会員サポート費・月会費（12回分）の税込総額です。

1978年創業  
株式会社 **ブライダル**  
Network 東京・湘南・豊橋・名古屋

お問い合わせ **0120-415-412** ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>  
(月曜定休)

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F



坐像裏の碑文



クレヨンで浮かんだ四言古詩

墓参を継続してきた中で、最初に寮歌を歌う場所である新渡戸稲造氏の坐像の背後には、格調が高い漢詩が明記されている。この漢詩の

10月14日（日）、秋空の下、多磨霊園に伊藤敦之（医S42）、首藤義明（工S42）、村野さん（首藤氏友人）、関口光雄（工S43）、藤輝男（工S43）、平田更一（理S44）、福地光男（水S45）、石川満寿夫（工S46）、古跡純一（理S47）、坂倉雅夫（農S48）、村上幸夫（理S48）、細井眞澄（工S49）、柳原盛二（薬S49）、石田恵（歯S50）、朝倉仁樹（法S56）、川添公貴（工S56）、三村直己（理S57）、島田久（工S61）、浅田清（歯H1）、池田雄二（法H18）、松岡渉（工H20）、坂下節子（H26）の方々が集まった（敬称略、カッコ内は卒業学部と年次）。22人というのは、過去最高の数である。大阪から、札幌からと遠方の方も見えられ、新渡戸稲造氏、内村鑑三氏、有島武郎氏、廣井勇氏の墓石の清掃、落ち葉拾い、雑草の引き抜き、灌木の剪定等々の作業が、と次々と進んだ。

# 新渡戸坐像の碑文に挑戦

## 多磨霊園墓参



クラーク遺徳顕彰・墓参委員会 平田更一（S44理）

解説に取り組まれている福地さんの労作を次に紹介する。坐像は朝倉文夫氏作、碑文の作者と書は吉田増蔵氏と判明したが、碑文の解

釈は未だ見ていない。クレヨンで紙を摺り上げて、碑文を浮かき上げること成功した福地さんの資料の解説が待たれる。



新渡戸氏の坐像前にて

# どこまで 行けるか。

駅と暮らしがひとつになる。  
そんな、新しい街をつくるんだ。

49年ぶりに誕生する、山手線の新駅。その開発は、まさに街づくり。  
地域の人たちのつながりが生まれる広場や、  
国際的なビジネス交流拠点にふさわしい施設。  
たくさんの出会いが生まれ、  
そこで暮らす人とともに成長してゆく場所へ。  
「未来が楽しみになる、新しい街をつくろう」。  
そんな情熱を胸に、プロジェクトに携わる一人ひとりが、  
今日も挑戦をつづけています。  
高輪ゲートウェイ駅 2020年春、開業予定

※情報は2018年12月現在のものです

JR東日本グループ

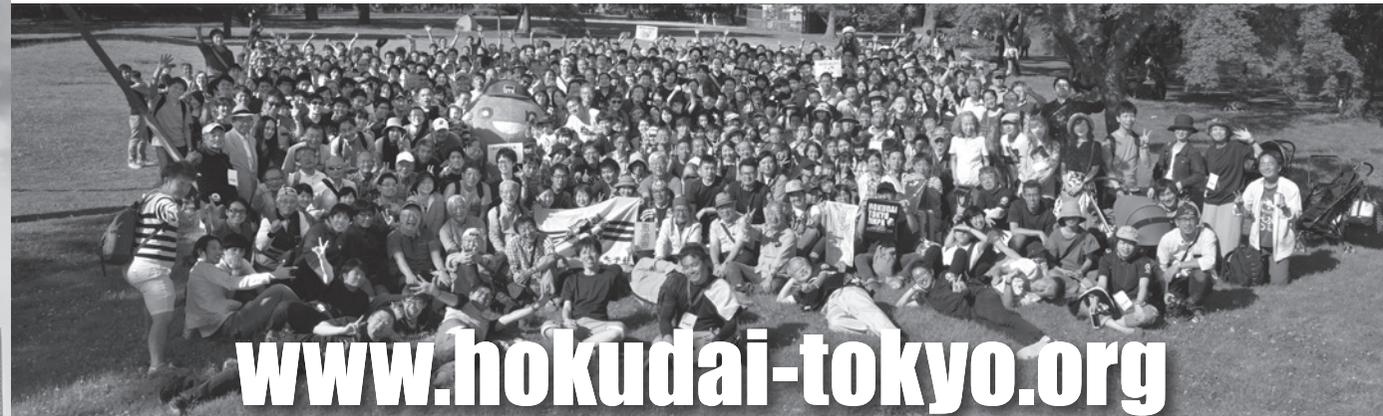
<http://www.jreast.co.jp/dokomadeikeruka>

未来のキップを、  
すべてのひとに。  
TICKET  
TO  
TOMORROW

新社会人歓迎

# 北大東京ジンパ 2019

[日時] 2019年5月19日(日) [場所] 昭和記念公園バーベキューガーデン(東京都立川市)



[www.hokudai-tokyo.org](http://www.hokudai-tokyo.org)



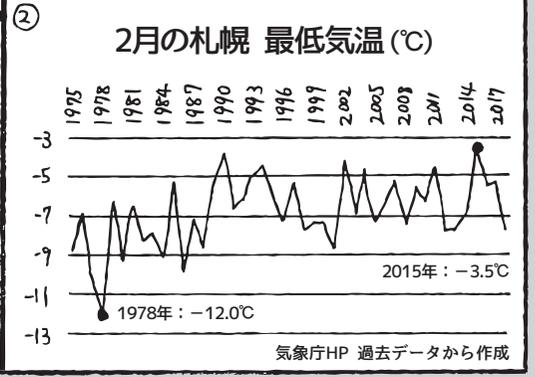
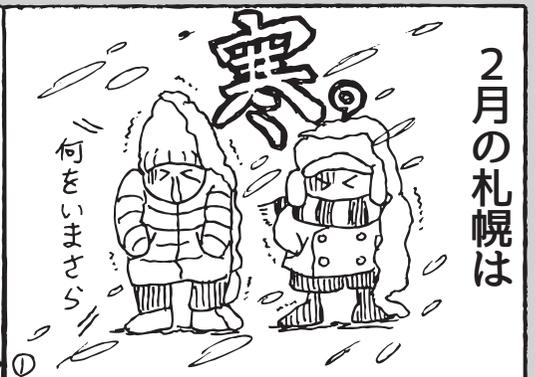
Official Web



Facebook



LINE



歳久人の北大あるある

イラスト©高野葵(H25環境科学院)

# 北海道の花

絵と文 鮫島 惇一郎



アツモリソウ

豊平川流域に日帰りに手頃な山々が並んでいる。札幌岳、空沼岳、観音岩山（五剣山とも呼ぶ）、神威岳、そしてその奥に無意根山、定山溪天狗岳（通称定天）などだ。  
濃緑色の電車が活躍していた定山溪鉄道はまだ元気があった。気楽な？学生稼業真っ盛りの頃であったから、時間を作ってはこれらの山によく出掛けた。札幌神社（何時の間にか北海道神社になったが…）境内の狂騒の花見が終わ

り、札幌岳の山岳部の新入生歓迎キャンプもつつがなく済むと、もう六月。  
天気は良いからどこへ行くか？そうだ今日は定天！住んでいた所は札幌の端っこ苗穂の街だ。定鉄の始発駅は鼻の先、苗穂駅へ。  
終点定山溪の手前、錦橋からは歩いた。かつてここから豊羽鉱山の碎石置場まではレールが敷かれていて作業員らも運んでいたが、列車はもう走っていない。粗末な道を歩くよりまだましだ。レールの間を歩いた。

豊平川の支流白井川と熊の沢の合流あたりには、かつて釣橋があったらしく、ワイヤーだけの残されていた。少しばかりの平坦地にはドイトウヒの林があったが、その後どうなったか知らない。美しい林であった。熊の沢の瀬音が心地よく、ヤマバトの物憂い声も嬉しい。ひとり歩きは勝手に満足できた。踏み跡みないな道であったから思うように歩いたというべきか。  
尾根に近く草叢があった。その間ににやらかい花があった。近付いてみると見たことのない姿だ。仕方がない持って帰って先生に聞いてみよう。粗末な根掘りを取り上げてみた。しかし何に入れて帰ろうか。まだビニールとかポリエチレンの袋などない時代だ。そうだ！飯を食った後の飯盒ならいいと思いついた。正解であった。  
理学部温室の教官に提示すると、丁寧にミズゴケで包み込み育ててみるというわ。そしてその花の名は、アツモリソウだと教えてくださったのだ。

（昭25理・植）

## 編集後記

■昨今の早慶は7割が関東出身者だというネット記事を読んだ。北大は6割以上が道外出身者だとか。今号では、3つの運動部にまつわる記事が載っているが、どれも創部が古くて驚くばかり。硬式テニス部118年、柔道部111年、スケート部124年だ。有名大学の受験生が地元志向になつてきているか、北大には全国から学生がやってきて、伝統を受け継いでいる。

今年のジンプは1000人を超すだろう。皆で東京同窓会が創つた新しいお祭りを繋いでいきたい！（島田久）

**FRONTIER** 北海道大学 東京同窓会 会報  
第54号 2019年（平成31年）2月20日発行

発行所：北海道大学東京同窓会  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12  
サピアタワー10階  
☎03-3211-9211 ☎03-3211-9288

Eメール hokudaic@poppy.ocn.ne.jp  
H P http://www.hokudai-tokyo.org/

発行人 杉江 和男  
編集人 高橋 寛 島田 久 川添 公貴 松永 千代  
高野 葵 浦崎 稔史 山本 淳博 八谷 俊雄  
青山 千穂 堀井 靖代 中井 啓之 陣谷 義直

